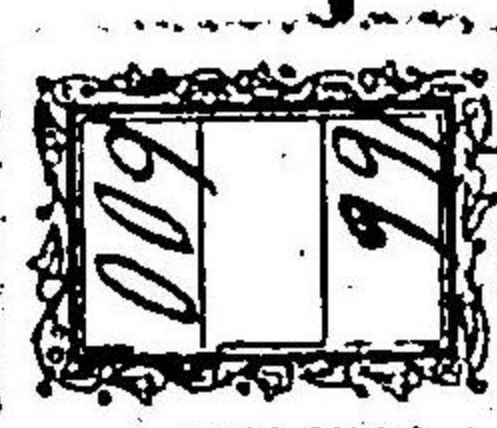


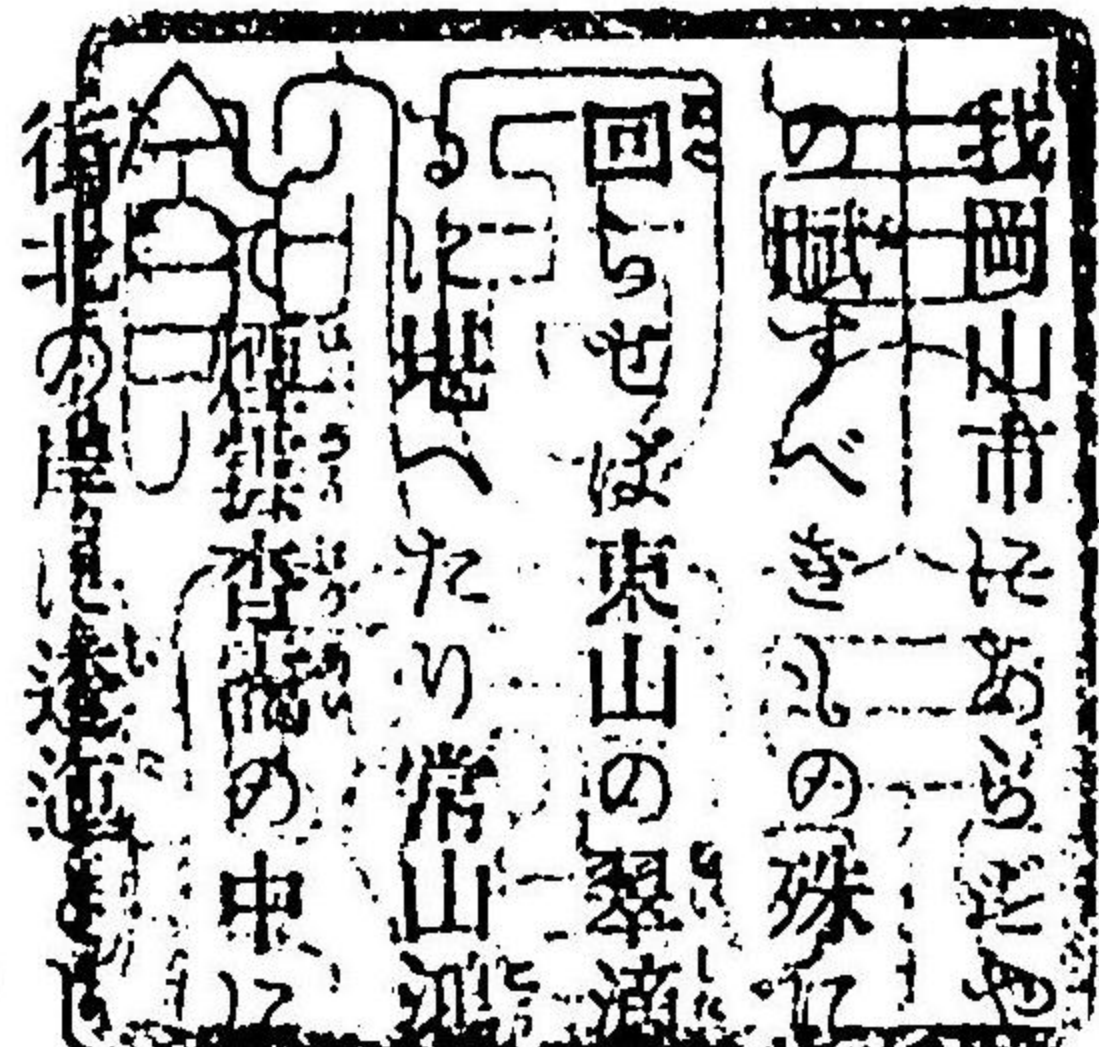
24-66

特 23
111



序

山陽膏腴の地に據し海陸四達の御舟
車輻湊の便利を占め魚鹽蜃蛤の供給に乏し
から迄三百年雄鎮の墟趾兩備作縣治の首府
往時嘗て小浪華の目ありしものは乃ち是れ



我岡山市にあつては是故に市の觀るべきも
の賦すべきもの殊に多く其景致の如き頭を
回らせば東山の翠滴るが如く旭水の流掬す
るに堪へたり常山瀛峯の海南の天に糝糊と
す神樂杵の中を響ゆるもの鳥城粉壁の
街北の岸は遠望として碧流白沙の間に掩映
するもの皆以て彌客の憂愁を慰むるに足る
べし其他名将忠臣の祠宇は遠く三公の廟食
を留め英靈招魂の碑石は近く維新の淵原す
る所を想ひ見るべし朝府の先廟を偕樂山
上に憑吊するも物換り星移り金碧剝落老松
離立此の中自ら今昔の感に堪へざるものも

あるべく神祠佛閣を晨鐘暮鼓の間に巡歴するも香火の盛蕪繁の旺なる翁媪孺子の深省隨喜を感發せしむるに足る就中庭園の如きは往時藩公多年經營の餘に成る所る林泉の構造は巧に深山邃谷を都邑の裏に包括し布置の制裁は廣く名勝靈區を一園の中に摸造し花卉の富亭樹の幽其意匠の慘愴たる實に天施地爲自然の工を奪ひ巨靈の手を運するものと誇稱するも亦過言にはあらざるなり
恭しく惟みれば往年

鳳駕山陽に巡狩在らせ玉ふの時驛を此園に駐め玉ひ御簾を東山の翠に捲き御舟を碧水の潺湲たる處に浮べ深く

天顔の麗はしきを致せしより滿園の草木翠華の餘光に浴し遂に一層の光彩を煥發し來り都鄙の人口をして藉々我後樂園なるものあることを知らしむるに至れり今や行通の便

日々に開らせ來往の佳客益繁し想ふに市中の勝を探り以て一日の閑遊を試んと欲するの諸士も亦多々なるべく而して其間或は東道の人に乏しく時に隔鞞の憾なきにしもあらざるべし是に於てか案内記の殊に己むを得ざるの必用あり岡山共贊會に於て此小冊子の撰ある所以なる歟余受て而して之れを披閱す市中の勝一目瞭然曳杖の參考遊者の捷徑之れに過ぐる者莫し然れども此冊唯に其大概を記するに止まる園の風趣や諸勝の景致や固より筆墨の悉く摸寫し得る所るにはあらざるなり譬へば王嬭西施小野の町の如し其國色豔美は畫くべきかり其精靈微妙の一點に至つては丹青繪畫の得て寫す所るならんや余案内記に於ても亦此感なしとせど遊人宜しく其實景に就き其佳趣を賞して可なり因て需に應じ一言を卷端に題す

と此の如しと云爾

明治二十八年四月

於西川蠻舍陋巷草深處

西川漁夫 河上市藏 題

凡例

一明治二十八年四月第四回内國勸業博覽會を京都に開設せられ同時に平安奠都紀念祭の舉行あるに際し我が岡山に於ても之を賛成し商業會議所、實業談話會及び各實業組合の有志者等相謀り岡山共贊會なるものを興起し市會の賛同を経て左に列記の設計を爲し四方遊覽の人々をして此地に舟車を駐めしめんとす

一後樂園賭館を裝飾し奠都祭紀念章の携帶者及び本會より特に招状を發したる人士等を延きて茶菓を擬し又園内に數箇所の茶店を設置し遊覽者に休憩の便宜を與へしむ

一岡山城天主閣に美術品、工藝品、武器、學藝品、手藝品等を陳列して衆庶の縦覽に供し及び天主閣附近に縣下諸物産の販賣店を開設せしむ

一東山公園に諸種の樹木を栽植して一層の風致を添へ且つ操山上の三勸福邊に休憩所を設け登山者休憩の便に供す

一小橋町國清寺に於て該寺所藏の寶物を陳列し及び國富村少林寺の大五百羅漢を開列し來遊者をして縦覽せしむ

一各神社佛閣をして祭典法會を執行せしむ

一旅人宿をして組合規約を確守せしめ些少の弊害なからしむ

一本營は右岡山共贊會の囑托に依り實業談話會に於て委員を撰び之を編纂したるもの要は來遊者に利便を與へ

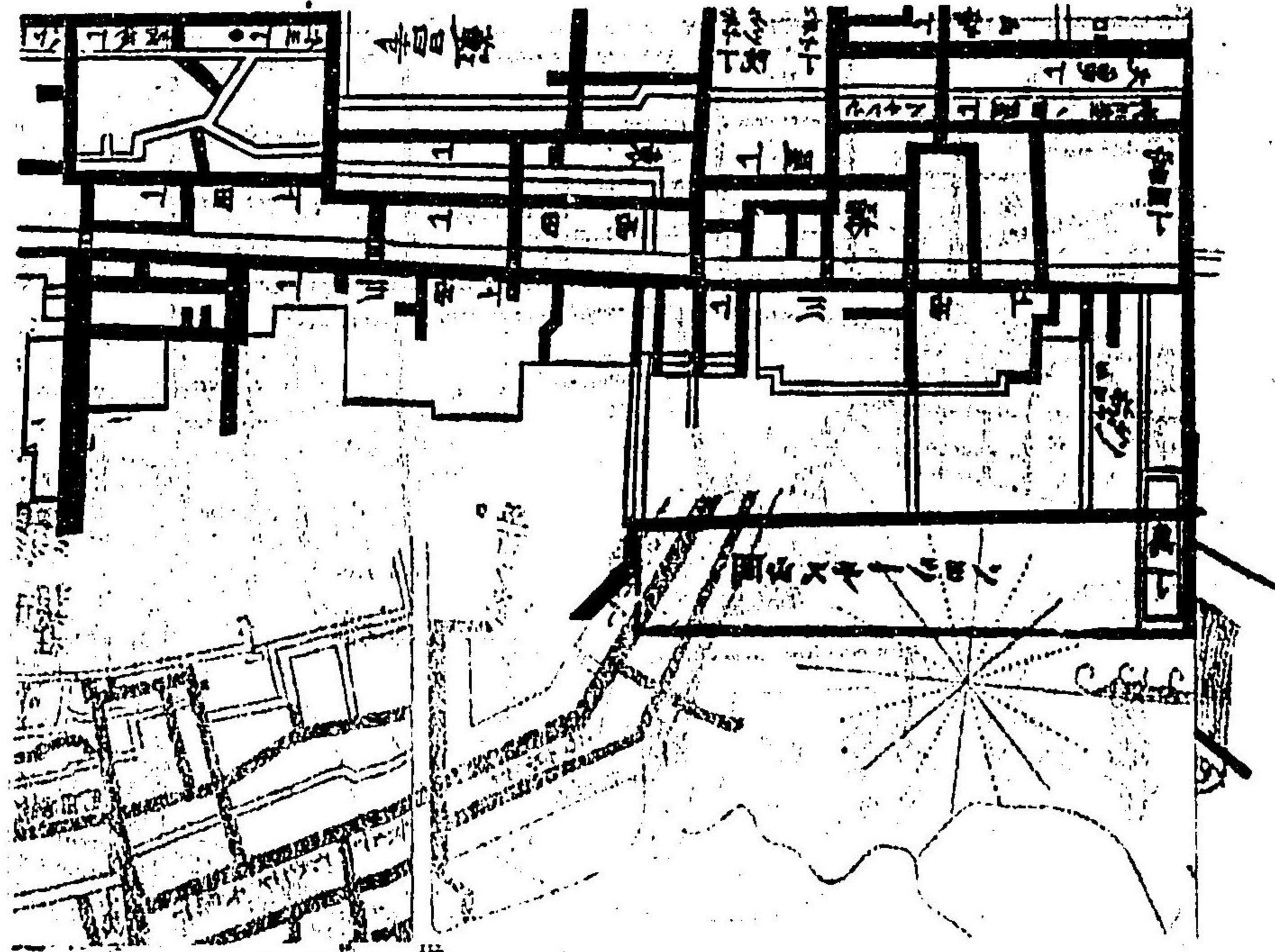
人が爲めにして又其發會設計の一に屬す
 一本書の記事は實地に就き其事實を確かめたるものなれば固より誤謬なきを期す
 一本書の序文は河上詞老の靈筆と畫圖は大森柳江氏の揮毫とに成り共に本書に一段の光彩を放つを得たるは深く編者の謝する所なり

實業談話會編纂委員

山根林太郎 職

目次

岡山	旭座	全
岡山停車場	行幸堤	全
三好野花壇	岡山紡織株式會社	一八
岡山監獄拘留監	岡山精米株式會社	全
弘西尋常小學校	國清禪寺	一九
伊勢神社	岡山孤兒院	全
御行旅所付兵團	山陽女學校	全
旭川の鐵橋	東山公園付招魂社	二〇
後樂園	東照宮	全
岡山城	大福寺付大地蔵	二一
岡山洞候所	玉井宮	全
岡山高等小學校	瑜伽山	全
岡山縣病院	峠	全
第三高等學校醫學部	操山付三勸祠	全
岡山商業會議所	少林寺付大五百羅漢	二二
岡山電燈株式會社	瓶井山	全
岡山鐵工株式會社	第二十二國立銀行	全
岡山精米會社工場	清輝尋常小學校	全
岡山製糸株式會社	魚市場	二三
大久保商會	岡山監獄	全
株式岡山銀行	春日神社	全
株式岡山貯蓄銀行	岡山感化院	全
京橋	耐火煉瓦製造所	二四
魚市場	明習館	全
中島	錦苑製鐵所	全



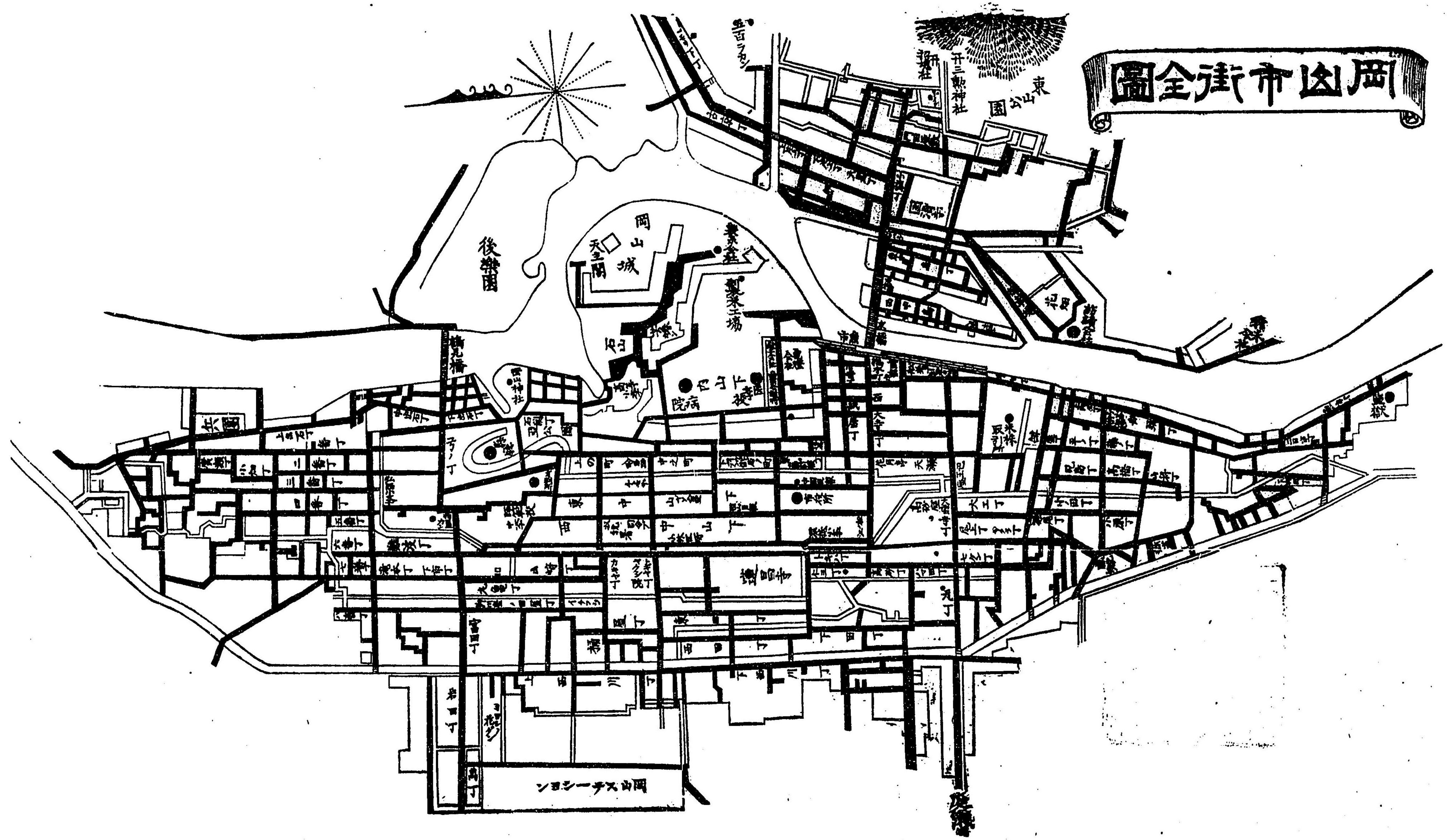
つ 畑にに 景街し東を回水交割り 大市とり入

岡山案内記

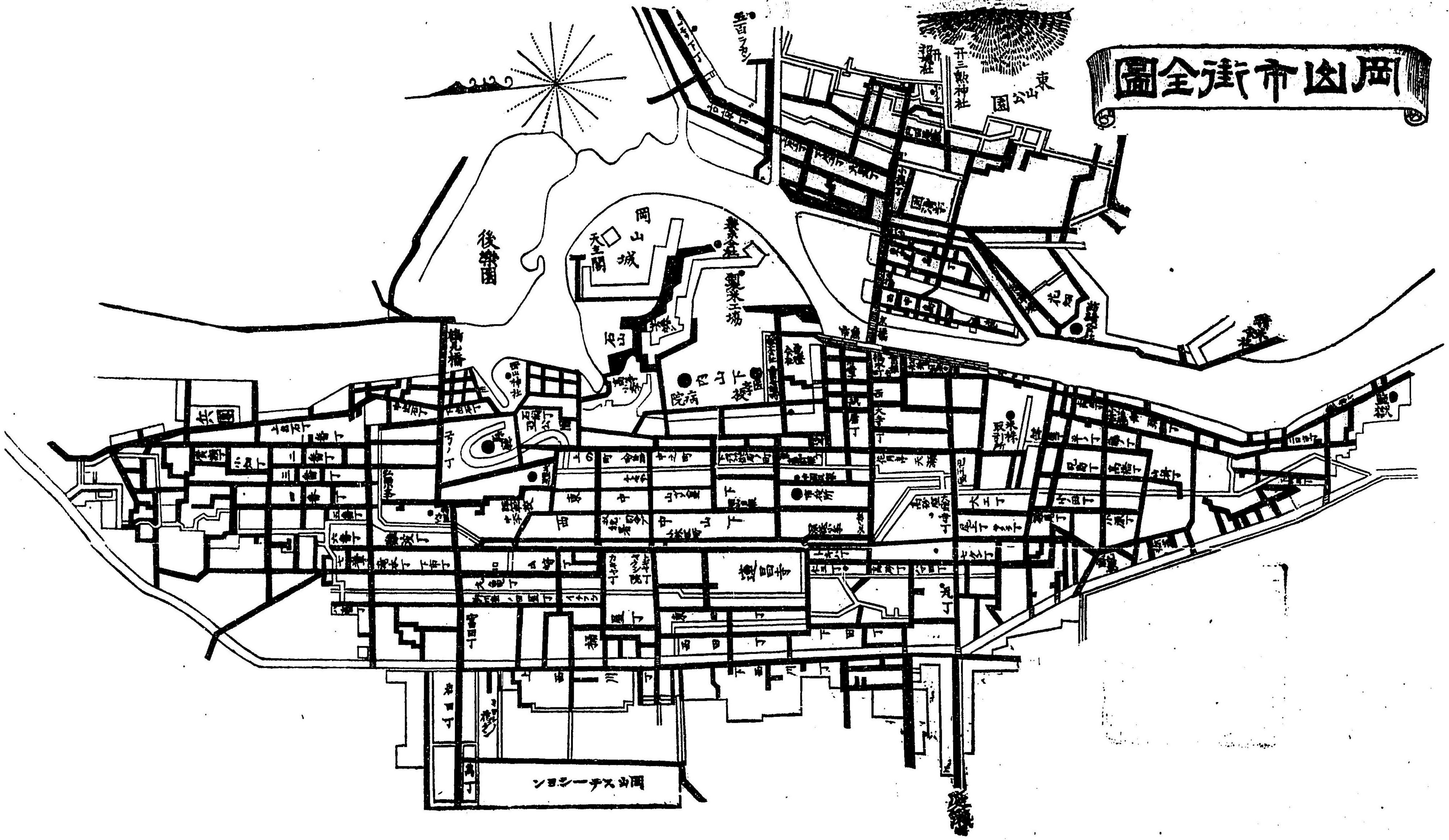
實業談話會 圖解

岡山米取引所	全	岡山日報社	全
花月亭	二四	蓮門教院	三一
岡山警察署	二五	神宮教會所	全
鐵樓	全	大隊區司令部	全
濟美館	全	岡山收稅署	全
山陽新報社	全	岡山縣尋常師範學校	全
岡山郵便電信局	全	岡山縣尋常中學校	全
自由舎	二六	金刀比羅宮	三三
亞公園付常盤木	全	柳川座	全
岡山縣廳	二七	一富士	全
岡山神社	二八	兵庫大林區署派出所	三四
岡山地方裁判所	全	藥師院	全
付岡山縣裁判所	全	岡山寺	全
加島銀行岡山支店	全		
私立玫瑰學校	全		
天主教會堂	全		
千歲座	二九		
岡山基督教會堂	全		
岡山縣巡查教習所	全		
岡山市役所	全		
中國民報社	全		
巴玉座	全		
高砂座	全		
黒住神社	三〇		
蓮昌寺付大雲宗	全		
松の江樓	三一		
岡山簿記學校	全		
深抵尋常小學校	全		

岡田市街全圖



岡田市街全圖



後樂園

岡山城
天皇閣

製米工場

巴子下校
病院

蓮昌寺

岡田ステーション

東山公園

十三番神社

北町

西町

東町

南町

北町

南町

北町

南町

北町

南町

北町

南町

北町

南町

北町

南町

橋元橋

西町

東町

南町

北町

南町

北町

南町

北町

南町

北町

南町

北町

南町

北町

南町

東町

南町

北町

南町

北町

南町

北町

南町

北町

南町

北町

南町

北町

南町

東町

南町

北町

南町

北町

南町

西町

東町

南町

北町

南町

北町

南町

北町

南町

北町

南町

北町

南町

北町

東町

南町

北町

南町

北町

南町

北町

南町

北町

南町

北町

南町

北町

南町

東町

南町

北町

南町

北町

南町

西町

東町

南町

北町

南町

北町

南町

北町

南町

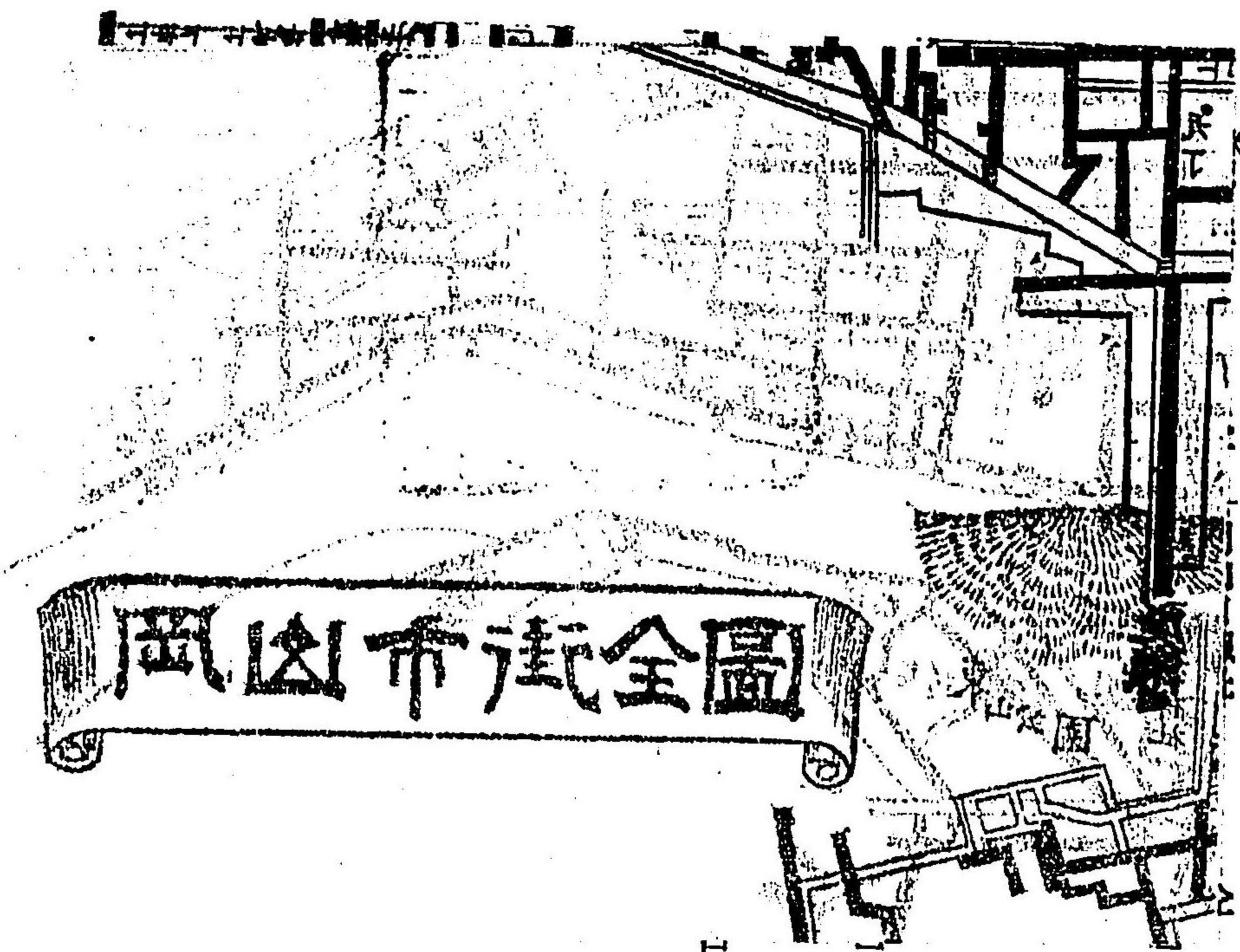
北町

南町

北町

南町

北町



岡山藩立學校
深抵尋常小學校
全 全

岡山案内記

岡山

實業談話會 編纂

山陽道の中央を占め北方に巍峨たる金山を負ひ南面に滂沱たる児島灣を湛む登萬三千の戸敷を有し五萬有餘の人口を包み遠く作北より注ぎ下る旭川は南北に横流し去り遙に東播より走り來る平坦廣闊なる一條の國道は中央を貫通して西備に入る運輸交通の利便、商工業の發達、市街繁華の景狀、氣候の温和、嶄然として頭角を中國の天に擡ぐものは即ち是れ岡山の地其者なり

想ふ昔時池田氏三拾餘萬の封土を提げて此土に藩主たり南本三百年居城の地盤然たる中國の一大都會にして一朝權を廢し岡山縣を置かるや大勢の變化と共に物質的文明の花は爛熳として市の局面を點綴裝飾するに至れり水は旭川の河口に主蟻港あり東西航海の濠翰は日夕數回の投扱を以て神戶、大坂、四國、九州等の各地に線路を連ね陸には山鉄の蒸氣あり晝夜十數次の發着間斷なく東は神戸、大坂、京都より西は尾之道、廣島の諸方に遠し笛聲高く轟きて時に半宵の夢を破り電燈白色の燭火は街路店室に輝きて閃々燦々たる光明は宛然たる不夜の光景金鳥城の天守閣は近く亞公園の築成閣と偲脱して中天に高さを争ひ後樂園の神仙なる東山の閑雅なる其名聲風に天下に沿く各種の工橋に聳ゆる數十柱の烟突は常に煤烟を滾らして消碧の空を蔽ふ物貨旅客の集散愈々多く隨つ

て商業日に月に益々繁盛の域に向ふ殊に近來合資結社の美風は蕩然として岡山人士の心を驅り其商工業をして一層に振起隆昌の氣運を開かしむるに至りたるは爲めに岡山の面目と聲價とを高くするに足るを見る

而して元來岡山の地たる廣表僅に一里餘の大に過ぎず然れども遊ぶ可きもの賞す可きもの樂む可きもの覽る可きもの又決して鮮しとなさず若夫れ歩を狂げて探り杖を曳きて訪ねば尙幾千の光陰を消すに足るの價値あるを覺ゆるなり

岡山停車場

岡山を西に距ること僅に數十歩御野郡石井村大字上出石に在り數年前に溯れば一面の峯巒稻田景象忽ち一變し今や新築の屋舎は軒を並べて立ち運送間屋あり荷物取扱店あり旅人宿あり割烹店あり賣茶亭あり皆争ふて客を招き數十輛の腕車亦轅を構内に並べて指呼を待つ日夜十數回の上下發着に乘客と貨物とは常に積んで山の如く喧囂騷擾の操股賑雜沓の觀而して又宏闊壯大の結構は實に山鉄の諸驛中屈指の停車場たるに背かず一礫の如き平坦の道路は新に驛の前方左右に開かれ歩を左に北すれば忽ちにして東西を一貫せる國道に出づ其東南に當りて

三好野花壇

あり元是れ備前國老伊木三猿齋の設けたる別墅今は修復を加へて屈指の旅館に改めらる庭園の風致に富める所謂貴顯紳士なる者の多く足を投ずる所たり

若夫れ往復に數時間を擲ち國道を西せんか二里にして宮

内に吉備津神社あり三里にして高松に稻荷神社あり或は細谷川に丸木橋の舊址を探り或は清水長左衛門の礮石に羽柴が水攻の遺跡を訪ふ可し

而して國道を東し岩田町より富田町、丸龜町、難波町を過ぎて盡頭にあべば左角に一廊の建築あり是れ即ち弓之町なる

岡山監獄拘留監

なり昔時藩政の頃に設けたる牢獄にして白日影尙は暗く鉄鎖の音管杖の響幽かに洩れ來り悲愴凄世に遠へざりし處今や大に面目を改めて復た昔日の慘なく然れども死刑の執行は今尙は此の監内に於てす」監と町を同ふして稍や北に

弘西尋常小學校

あり災後の新築に係り器具稍や完備し廣潤の運動場之に深ふ」校前の小橋を渡り直ちに北進し三番町を過ぎ右に折れて小畑町に入れば

伊勢神社

あり該社は往時岡山藩主の崇敬せし處維新の後縣社に列せられ老松古杉の群を成し蒼鬱色深く峙ちて存する有り中に就き蜿蜒龍の如き蒼苔の一老松と秋天紅を染め成すの一大樹樹とは是れ容易に得可からざるもの」社門を東して磔道を上らんか即ち今の兵團昔時の

御行旅所 付兵團

に至る此地は旭川の濱に臨める一區域にして四面堤防を繞らし數十株の蒼松屹として聳へ封建時代に於ける一個

の遺跡たり想ふ昔時寛永二十年岡山藩主池田光政東照宮を東山に勸請し正保三年に至りて其祭禮を執行せしに起因し爾來歲々之を權現祭と唱へ神輿を奉じて此地に來り番衛供奉の諸士服裝最も嚴正に式典極めて莊重に以て維新の前に及び整肅の儀容他に類を見る稀れなる處當時域内は總て芝草を裁へ倉庫を築き馬場を設け射場を置きたりしに王政の革新に伴ひ時勢一變し此祭典も亦廢せられし以來一時兵士の屯集所となりたり即ち是れ兵團の名ある所以か置縣の後は一面の田圃を開き市民の住家軒を並べて一町を形成するに至り旭川を下るの高瀬舟は大抵此地に集まりて用度を辨じ時に繫舟百餘に達することあり又是れ一番の眺望を投す可き處「御行旅所の北僅に二町を隔つるの邊低く一帯の長虹を架するものは

旭川の鐵橋

なり長さ二百間に餘り山鐵の線路中又稀に見る處見て以て双脚の疲れを減じ眼眸の塵を洗ふに足る「兵團を旭川の堤に沿ひて南下すること數町東に曲れば直ちに七拾餘間の一大板橋……鶴見橋……を認む橋を渡れば即ち日本三公園の一たる

後樂園

の北門に入る抑々此庭園は貞享三年備前國主池田左少將綱政其の臣津田永忠に命じて工事を統督せしめ翌四年十二月初めて着手せるもの反別凡そ一万七千七百餘歩を劃したり其後元祿三年三月に至り園の北方に五千二百五十三歩の地を増加し續ぎて又四千餘歩を合し總計二万七

千拾三步餘の一大庭園となり周圍九百三十二間中央東西の直徑百九拾七間に餘り南北は百拾七間を起步地勢西南に高く東北に平坦なり高きは丘岡の如く深山に似たり低きは池を隔て能く園外の郊景を望む可し四方は圍むに竹林を以てし溝渠に注ぐに噴水の清流を以てす園は初め茶屋屋敷と唱へ



(一節) 園 樂 後
島 之 中

其後後園と呼びしが明治四年を以て今の名に改め同じ十六年二月遂に岡山縣の保存園と爲り四民群遊和樂の公園と爲る山水の光景や眺望の佳絶や夏に宜しく秋に宜しく冬に宜しく又最も春に宜し三伏の炎暑には涼店に清風を買ひて煩熱の熱を洗ふ可く秋天の白霜には千入の森に獨紅錦を眺めて無聊の情を消す可く冬日の寒空には利休堂に白玻璃の暗香を酌み又臥龍梅の下に玲瓏たる玉枝の倒影浮光を眺む可く若夫れ春風駘蕩百鳥樂を奏して飛び千花媚を呈して笑ひ淡霞山腰を擁する陽春に至りては錦繡の羅衣影は翻りて澤池清鏡の面に

落ち響金の芳香氣は溢れて櫻桃瑠璃の瓣に滴る家屋の結構奇雅潔を盡し亭舎の布置心匠巧妙を凝らし一として世に傑出せざるは無し是れを以て一度び足を此園に投ずれば百年の氣鬱心悶は頓に消散し去りて拭ふが如く爽然快活塵外の感を生じ所謂羽化して九仙の天境に登るを覺ゆ遊客絡繹として四方より雲集し踵を園中に絶たざるもの實に宜なりと



(二第) 園樂後
祀神加由

開ふ可く風光の美眺瞻の佳日本三公園の一に加はり名聲を天下に馳する所以のもの豈に溢美過賞の辞ならん
暫軒 北門の左方に在り素撲の構造目を驚かすの壯美なきも而かも自ら風致を具ふ窓を開けば下に清澄の噴水を望み遙かに秦嶺の諸山を眺め避暑好適の一區暫軒風を以て十勝の一に入る東に閉谷神社遙拜所あり是れ今尙は池田氏の所有に属し遊人の妄に入るを許さざる處たり

岡山縣勸業陳列場

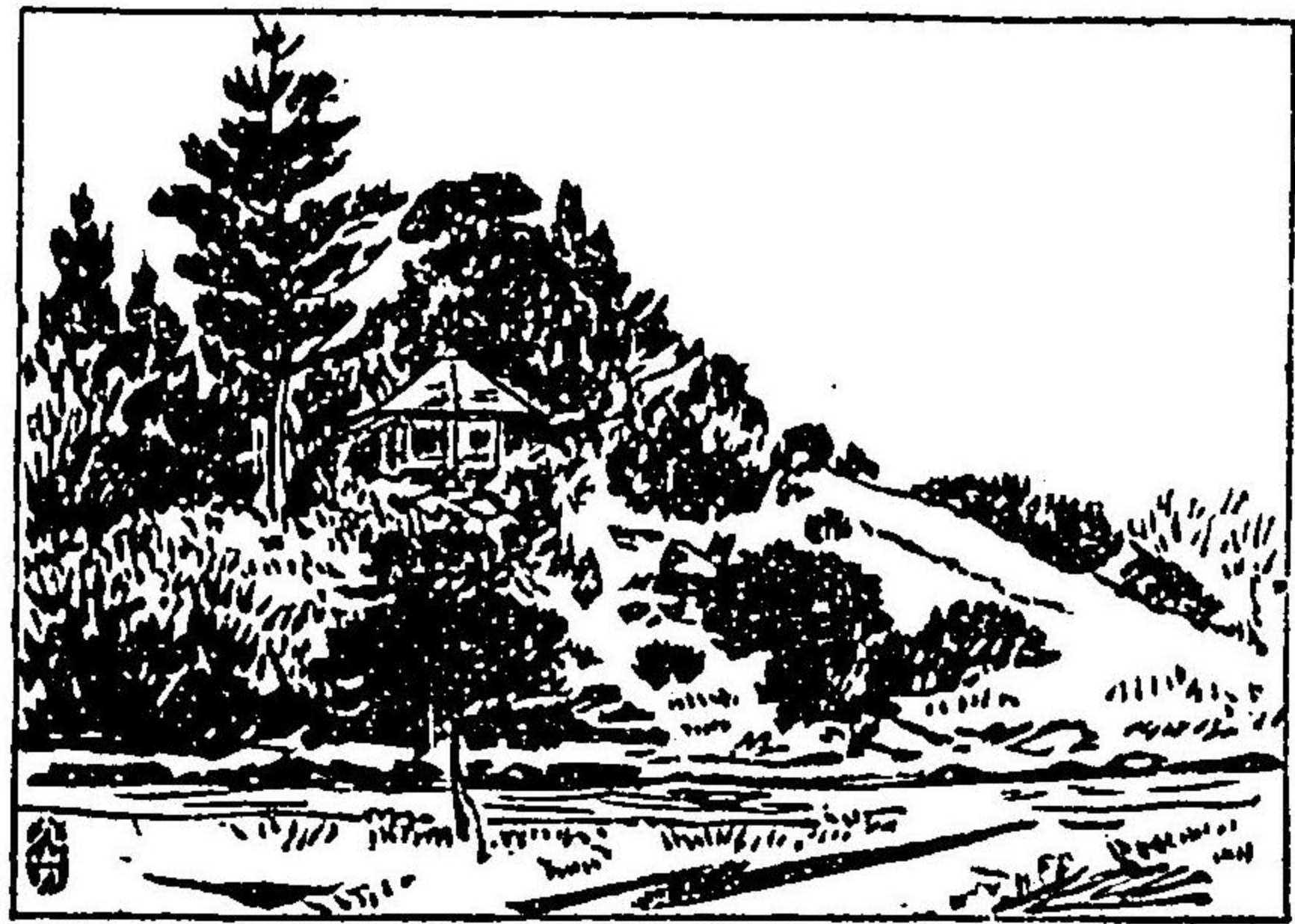
場は第二門の入口に在り明治廿八

年四月に建築竣功を告げたる四層の高樓にして又人目を率くの家屋たり場内に陳列するは皆是れ縣下特有の産物にして分ちて許贈品、委託品の二種と爲し衆庶の縦覧に供せり岡山縣下由來此種の陳列場なきを憾みとす今や此の設立を見る想ふ商工の業是れより益す其歩武を進むる

あらん
鶴鳴館

第二

門を入る南方に在りて園中第一の大園間たり岡山縣會開會の際は常に隣接に充用し其他諸種の宴會多數の集合には此館を假ること多く宛然是れ縣下の公會堂たり
延養亭 鶴鳴



(三第) 園樂後
山 心 唯

館と相並びて東南に連なる明治十八年 車窓西狩して山口・廣島、岡山の三縣を巡幸し給ふの際假りに 玉座を設けし處にして清深高雅眺望最も廣瀬東方遙に觀粟子、三嶺の諸山に覽して朝夕紫翠の色を迎へ瓶井山なる三層の高塔は園中茂林の間に隱見し亭前奇岩怪木多くして潮流の其間を過ぐるあり其前面の芝原は春夏の候綠莖を展

べたるが如し

榮唱 延壽亭の西北に在る一屋にして前に池泉を湛へ花葉と名く一巨石あり池に臨みて兀立し松樹あり岩腹に沿ふて生じ頗る奇觀たり又榭あり霜天早く紅を染め明光愛す可し要するに榮唱は是れ幽雅の地

花葉 榮唱の西地勢高く秀でたるの邊喬木千百條蒼翠

蕭瑟枝を重ねて

日光の透射を遮

り滿地の青苔常

に清涼の風を貯

ふ幽靜にして遠

邃恰かも是れ深

山幽谷の地中に

茂松庵あり南に

四天王堂あり其

の東に地藏堂あり

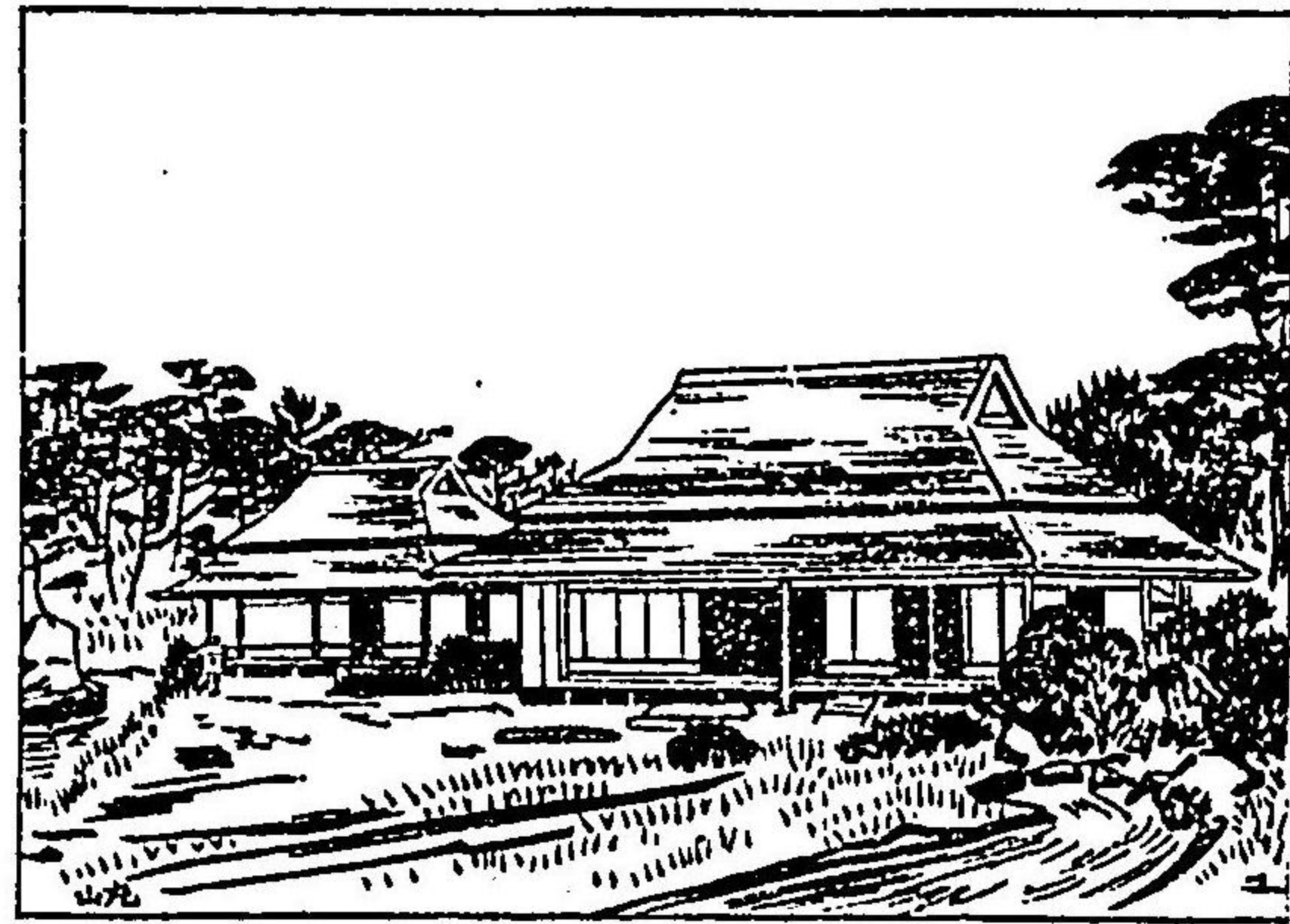
二色が岡亦其

傍に在り

廉池軒 南は

竹林を負ひて曠

水に臨み前に一池あり溝渠曲回石橋を架して往來す可し軒に坐して一瞥を放たんか唯心山は近く北東に峙ち潭池の水溶々清波を動かし北林の松翠々蓋影を披く東の藤架は蔓延數十歩紫白互に色を較べて態轉た深く之に隣れる臥龍梅は實に獨立枯健の老君子些しの俗韻なし其の北に



(四第) 園 樂 延 亭 美 延

數十株の蘇鉄あり又其東に渠を穿ちて中に多くの燕子花を養ひ板橋を交架せるは是れ参の八橋に擬するものか
流店 八橋の北に峙つ一樓の棧閣は是れ即ち流店なり
棧板を左右に分割し中央に一條の水路を疏通し中に各種奇形の石礫を散置す又好個瞻望の点
櫻林 流店の

東に當るの地は

一面の櫻林を

敷ふれば二百餘

に及ぶ軟風裳を

吹き珠菫を破る

の時に及べば香

雲十里滿目の花

影爛熳として獨

り春色を暮らに

するが如し

梅林 梅林は

櫻林の南に隣る

全幹蒼蘚榭榭俗

を脱し瘦健の風悉く高士の精神若夫れ朔風吹寒雪葩を裂

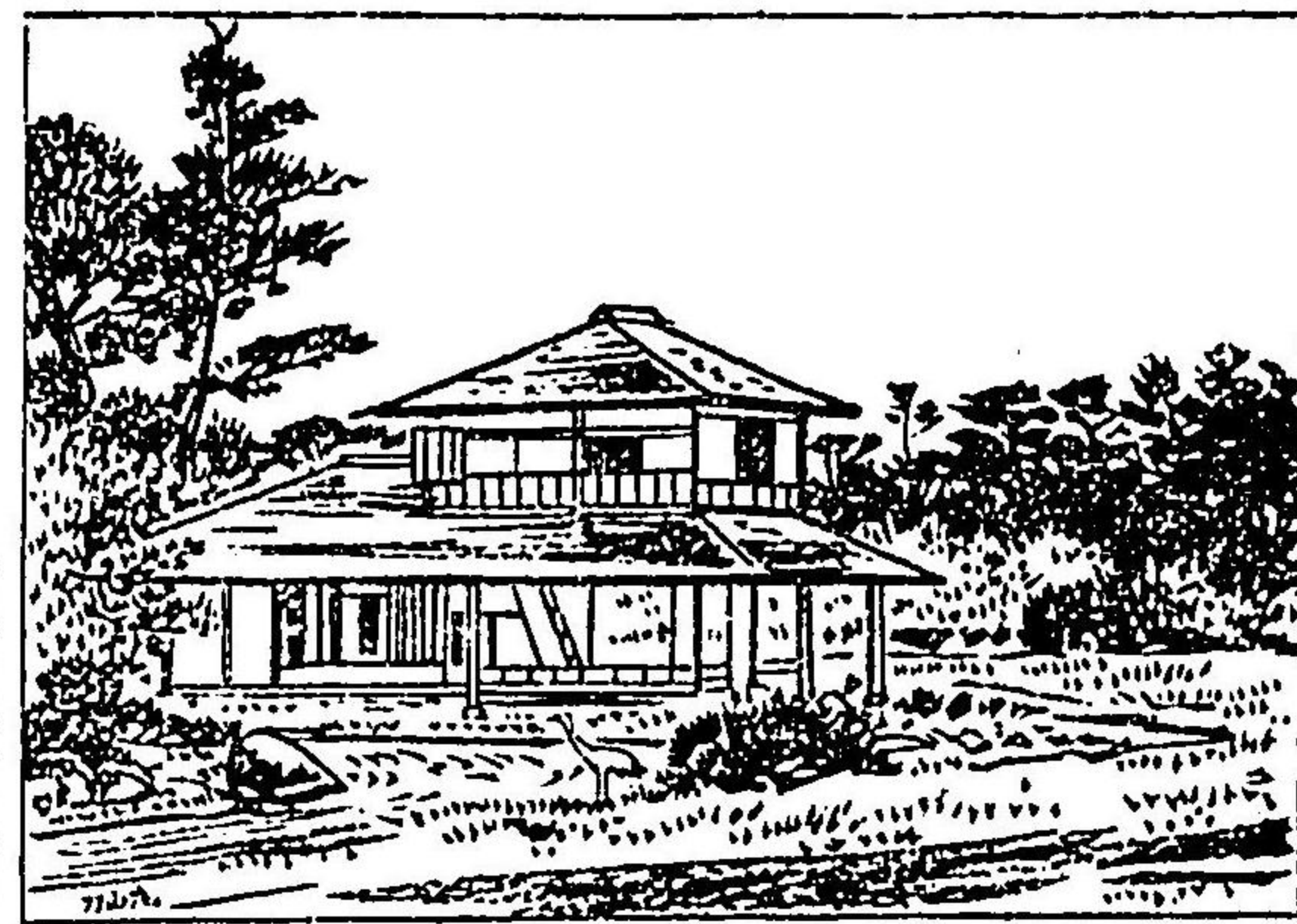
かんか暗香浮動微細として雅客の袖を留め淑女の衣に薫

守梅林の東一條の道は即ち之れ櫻の馬埒其の南に利休堂

あり利休堂の前に花交の溼あり風は是れ清絶幽絶の境

千入の森 櫻林の北に連る榭樹數十株新霜初めて降れ

ば全地紅映錦繡を飾り秋天の光は一段の艶を加ふ



(五第) 園 樂 後 店

新亭 千入の森の北東に寓す障を明けば園外曠野の光

景は一幅の寫眞畫と爲り聚めて寸眸の中に入る

唯心山 園の中央に在り即ち推して第一佳光絶景の好

位地と爲す滿山百樹繁生し怪岩亂石突起點在して蒼苔を

蒸す頂上僅かに平夷遠望を領するに宜しく園裏の勝景は

皆な收めて此の一丘に集注す遠く秀峰の間に北龍山の影

を暗み近く清明

の中に南鳥城の

姿を弄するが如

き畫筆の散て及

ばざる處杜鵑花

獨踞は山の過半

を擁して新夏に

赤白の色を點飾

し絶美更に一層

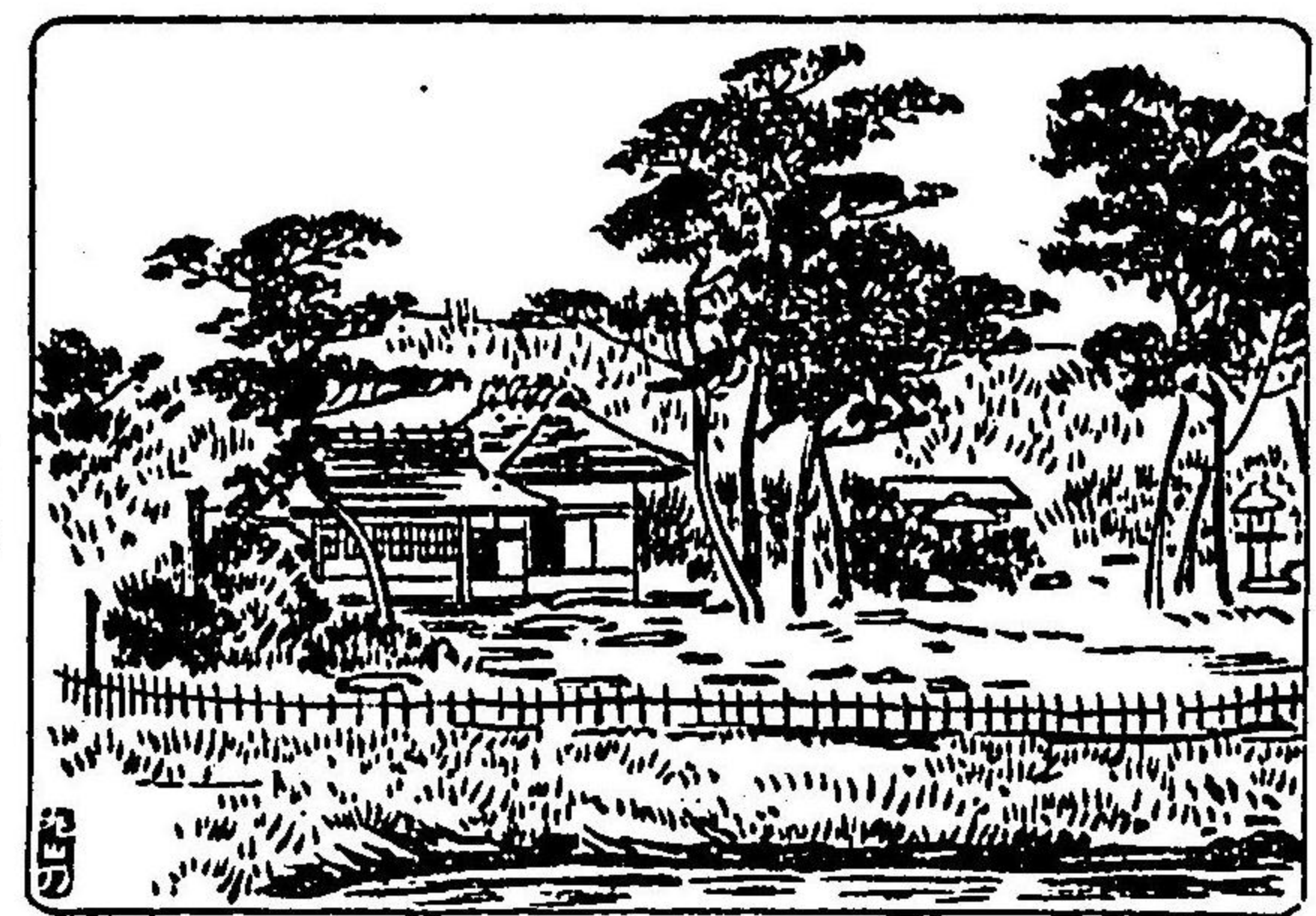
の秀を添ふ側に

小亭あり唯心堂

と名づく

澤池 唯心山

の北下に湛ふる



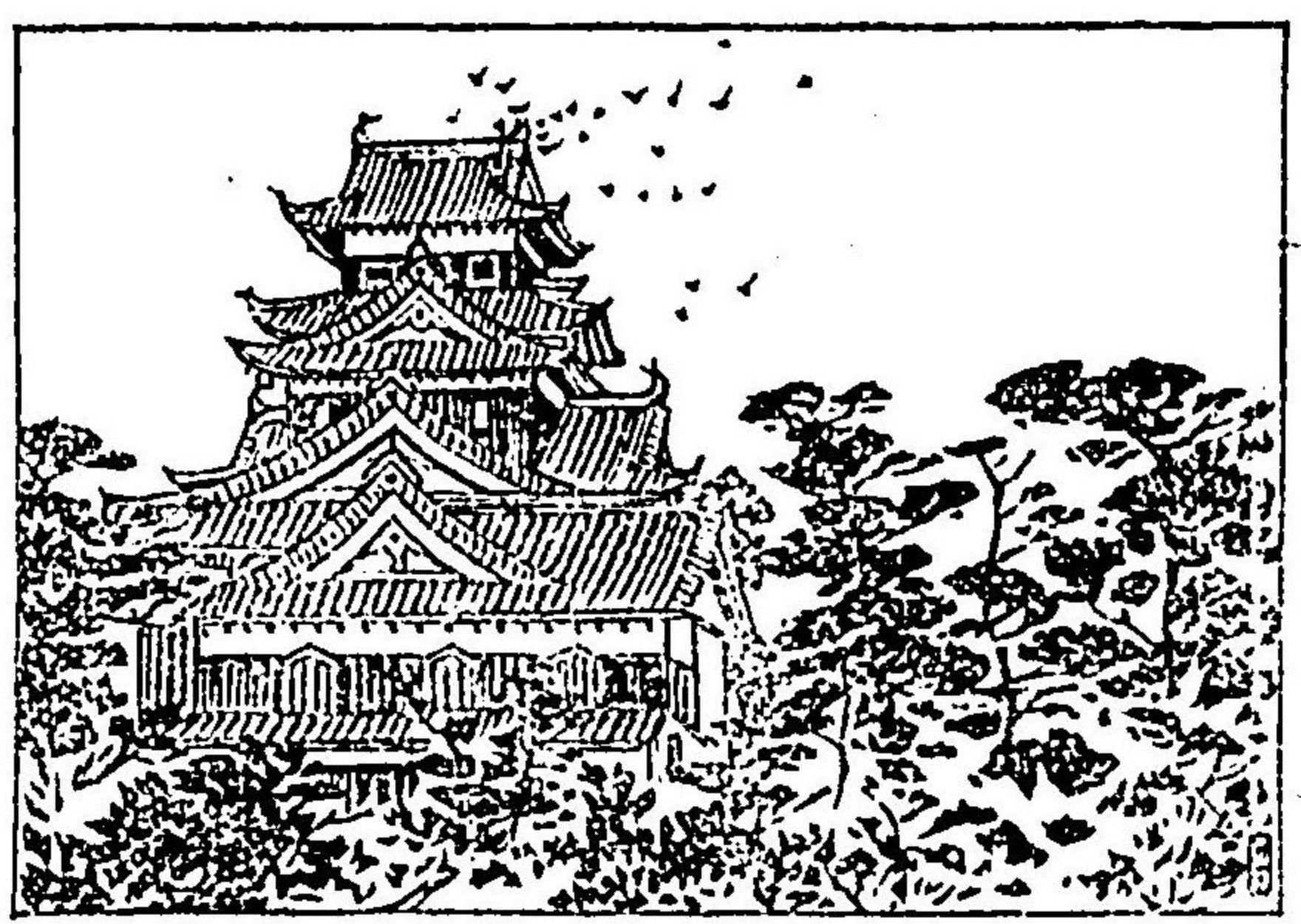
後利園(六第) 園休 樂

園中第一の大池にして中に三個の小嶋を點じ板橋を架し
て歩を通じ小亭を設けて憩息に供す矮松四周を繞り奇石
點々白沙の中に潑散する處宛たる海島の好趣園裏に放つ
四群の鶴翁時に來りて池邊の洲渚に遊び仙影を水明に浮
べ吹吸の聲は高く九阜の天に聞へ風趣の佳更に數段を増

寒翠細響軒 澤の北東涯に在り軒の北方に當りて寒松
聳立老幹密枝亦た之れ閑雅の一境たり
其他慈眼堂や由加神社や能舞臺や射圃や馬埒や訪ふ可き
もの賞す可きもの尙は未だ擿しとせず而して園の南方
竹林の間を潜り渡船を僦ふて旭川を横ざり對南岸に着せ
ば内山下なる

岡山城

に遠す岡山城は一に金鳥城と呼ぶ過ぎし戦國末宇喜多
能家旗下の將金光宗高の築きたる小城に初まり天正年間



岡山城

宇喜多直家來りて
其の規模を擴大に
し直家の子秀家に
至り慶長五年西軍
に属して關ヶ原の
大役に利を失ひ流
配に處せられしが
尙は殘党の城下に
潛むを疑ひ火を放
ちて市街を燒く然
れども城廓は烏有
の禍を免かれ尋
いて小早川秀秋居
り後池田忠繼の治

所となる忠繼早世して忠繼繼ぎ忠繼死して光政代り治め

以て維新の前に及び累代池田氏の據守する居城たり東北は旭川の流に枕み南西は渠濠を以て圍繞し要害堅固にして結構麗美なり四方の櫓樓今は毀ちて有らず僅に斷礎の殘存を見る且つ濠池を埋め藩士の邸宅多くは荒壞して舊形を遺さず唯一の天主閣が依然として巍然碧空を突き西方月見櫓と相對し往時の状態を存せるは亦岡山今日の壯觀たり

石山 城地の北西穴門の邊に在り一帯の巨石累々層重して組成する處地隈にも敢て揺かず曾て石山大明神を祭りき後亦一精舎を建立して池田家の慶福を祈りしが維新の後其影を留めず唯た老松幾十幹風に鼓して紫琴を奏するの音を聞くのみ然れども其高所に位せるを以て四隣の風色悉く一瞬の間に入り眞に愉絶快絶の光景を有す
芳春館 石山の南一濠を隔て二館の連なるあり是れ往時二の丸と稱し藩主の貴賓を延接し又た老侯の休息する處其の東正面の一館を芳春館と稱す門は東に面し建築堅牢にして屋室雅潔なり今や諸種の宴會は多く此館を假りて開く

觀風閣 芳春館の西に列す眺望最とも佳絶是れ亦假用して諸種の宴會を開くの場たり

二館の庭前には幾百株の胡枝花を栽へ亦其前面には桃園あり春暉麗かなるの花候嬌紅燃ゆるが如く參差光映して千笑を分ち流霽應に落るを見るべく西に巡れる池濠多くの紅蓮を生ず他濠皆な白此池獨り紅其半ば芳心を破りて嬌露に泣くの態一段の奇觀月に宜しく雪に宜しく四時の

佳景は總て此二館の中に集まるか如し

濠渠 城の南西は皆是れ一面の白蓮濠花開き葉展ぶるに方りてや露冷風清の間淨質芳姿溢として相顧み池光玉香芬として襟に滿つ

城内の地往時頗る濶大なり然れども今や一轉變化して岡山に於ける工業の中心地となり各種の製造場は堯を並べて相對し數柱の烟突は高さを中天に争ふに至れり「天主閣の南に

岡山測候所

あり高好の地位自から測候至適の處たり石山の西方に

岡山高等小學校

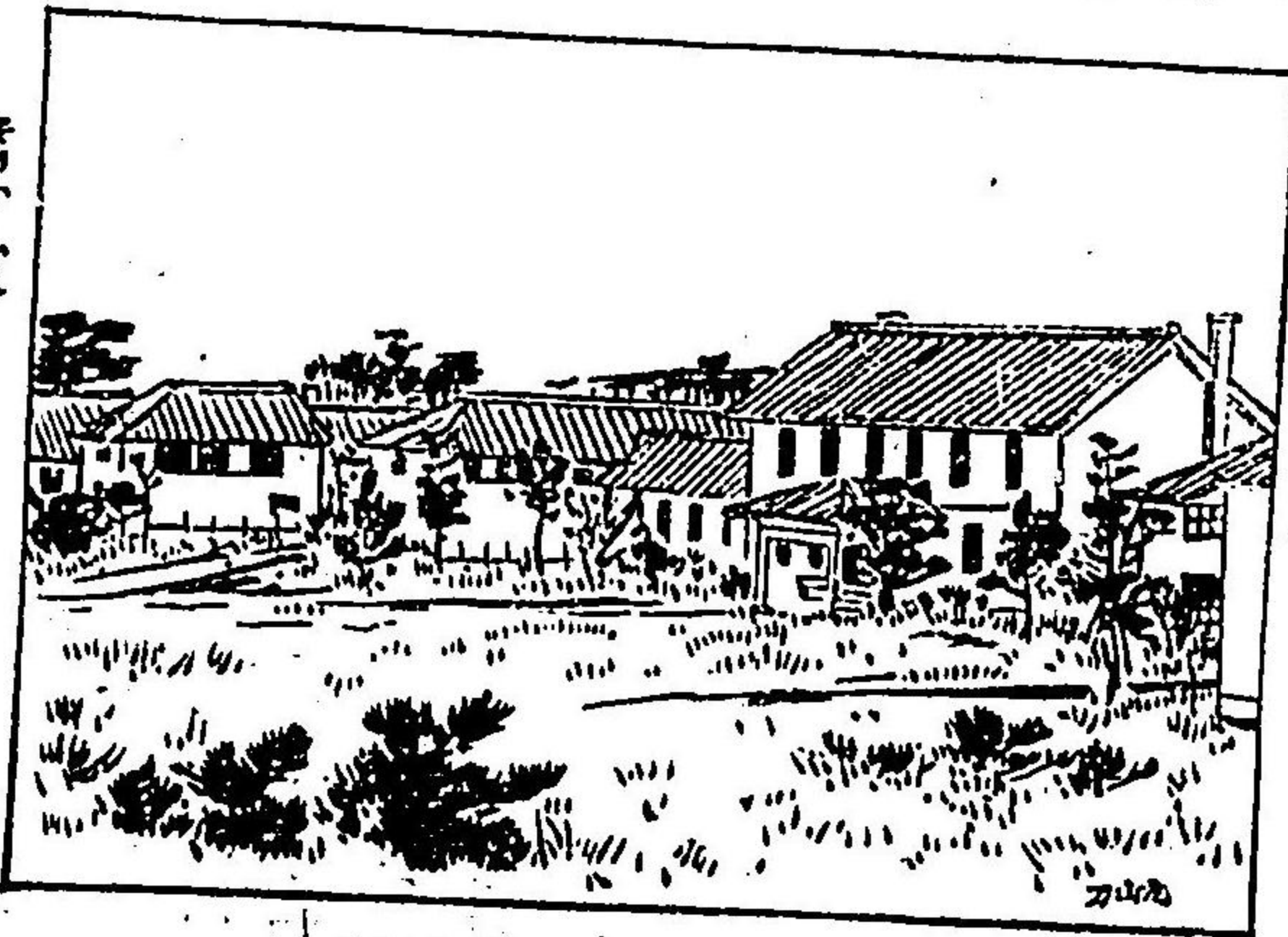
あり西方城濠に臨み廣濶にして高燥眺望亦佳校舍至適の地位たり是れ昔時西丸と稱せし處五六年前一時醫學部に充用せしものにして家屋漸次破損せるを以て今や岡山の有志者は高等小學校新築の議を決し將に工事に着手するあらんとす若夫れ一旦成功を告ぐれば大に其面目を改むるを得可けん「此校の南最も廣大なる地域を劃し最も宏壯麗美なる二層の洋館は此邊雙美の觀を呈せり其北なるものは之を

岡山縣病院

と爲す病院は初め弓之町今の亞公園下に設けられし明治二十三年新たに茲處に建築したるもの百科の器具完備せざるなく來りて治療を求むるの患者常に院内に充塞す我邦に於ては又稀に見る處「其の南なるものは是れ即ち

第三高等學校醫學部

なり境域極めて
 潤大館宇最も高
 爽校舍亦潔美を
 盡くす病院も同
 時の新築に係り
 熱心勵精教授を
 努め進歩頗る速
 に成績又著大歳
 々多數の卒業生
 を出だし嶄然頭
 角を顯はして全
 國幾多の醫學部
 に右駕するの勢
 ひあり病院と相
 待らて共に是れ岡山の双偉觀たり」校前を南して東に折
 れば



部學醫校學等高三第

岡山商業會議所

あり近時の創設に係るも事業漸く緒に就き實業界に裨益
 する所少からざらん」とす」會議所の東に近く新たに

岡山電燈株式會社

の設立せらるゝあり是れ又近來に於ける宏大の建築物數
 十條の電線は悉く此處より發し現時の規模を以てしては
 其需用に應ずること能はざるの盛運を來たせり」其東北
 に對立するものと

岡山鉄工株式會社

と爲す開業以來一二ヶ月に出でざるも事業漸次に發達し
 て機關の運轉止む時なく」東に進みて旭川の西岸に

岡山精米會社工場

あり本社は市の東南なる網濱村に在るも事業擴張の上よ
 りして別に工場を此地に設置するもの」又一渠を距てゝ
 北東に方り

岡山製糸株式會社

あり近年新築の家屋又屈指盛大の製造所にして製糸の額
 年毎に増加し夙に内外の好評を博す」製糸會社の北方に
 對して

大久保商會

あり諸種雜貨の製造と鉄工とを營業と爲す
 内山下の南端なる舊新開御門より西大寺町の丁字街に出
 で折れて東し南の方仲買町に入れば

株式岡山銀行

あり熱心懇篤に業務に當るを以て概近の創設に係ると雖
 も頗る世上の信用を収め日に月に隆盛に赴けり」又同銀
 行に併設せる

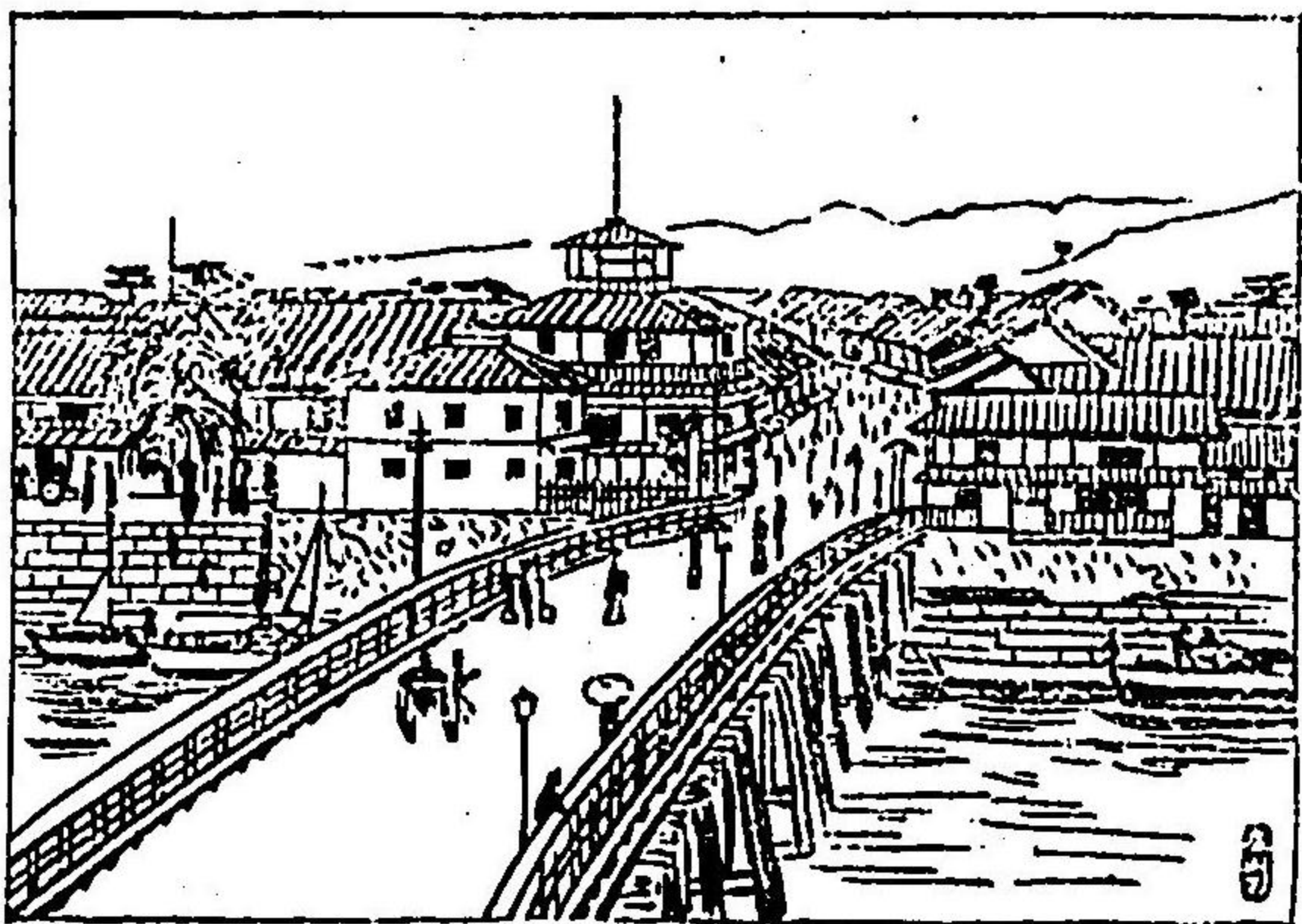
株式岡山貯蓄銀行

も便益の事業に屬するを以て大に一般の貯蓄心を喚起し
 漸次發達の好運に向わり」夫れより前路に復し橋本町を
 過ぐれば其盡頭なる

京橋 付納涼

に出づ京橋は各地里程元標の在る處旭川の清流に架せる
 七拾間餘の一大板橋にして堅牢無比架柱の如き幾十年の

久しきを經るも毫も腐蝕せず明治二十五年七月旭川の水
 氾濫して岡山未曾有の大洪水となり全市幾んど没し京橋
 も亦中央より斷落す其後直ちに修繕を加へ稍や舊形に復
 したりしが翌る二十六年十月不幸再度の水潦に逢ひ又爲
 めに斷落の悲運に接し今や其の斷片の僅かに殘存し其橋
 南に假橋を設けて往來を通ぜるが今や復舊工事の斷一決
 したれば復た前
 日の壯觀に復す
 るも近きに在ら
 んか
 京橋に就き特に
 肥す可きは納涼
 なり盛夏の候に
 及べば旭川の東
 碓に床亭を儲け
 酒食を供へて客
 を待つもの毎年
 百餘數紅燈星の
 如く燦として清
 波面上に映じ妓
 扇粉脂を装ひ争ふて遊客を呼ぶ北より南に延くの間物具
 似あり猿狂言あり細波りに輕業に演劇に足籠に和漢の名
 鳥深山の猛獸此に集めて觀世物となし貴賤群を爲して逍
 遙し雜沓最も甚しく靜かに流光に酒を酌むの風士あり妓
 を携へて涼棚に豪遊を貪る治郎あり而して亦た誕を囃流



橋 京

に上下して月明に囁ぶくあり絃歌の聲鼓鐘の響時に夜を
 徹するに至る般賑固より高るに足る若し夫れ納涼の真趣
 を問へば京橋欄畔此塵界の光景を下瞰し背後靜かに鳥城
 の邊より來る颯たる萬解の清風を収むるに在るのみ「京
 橋の北下河岸に

魚市場

あり毎朝幾十艘の漁舟此處に來り幾百の魚買亦た群集し
 て疾呼高く叫び其價を争ふの狀亦た之れ岡山の一奇觀た
 り「京橋を渡りて東岸に若すれば

中 島

に達す曾て聞く文祿の昔し羽柴秀吉宇喜多直家に説きて
 旭川の中間に二條の街を作る之れ即ち今の東中島西中島
 にして廢藩置縣の後許可地となりて遊廓を設けしより娼
 家妓樓櫛比し今や貸座敷の總數六拾六娼妓の數一百五拾
 餘而して西中島其要部を占め階級亦た上位に屬す朱唇白
 粉を裝ふて啼々店頭に團聚するの娼婦は秋波眼中妙に無
 量の媚を送り半宵一枕の夢を買ふもの酒池肉林の宴を張
 るもの醜を接して斷へず絲竹の音管鼓の響晝夜止む時を
 知らず宛然是れ岡山に於ける眞個不夜の街「西中嶋町の
 南端に劇場あり之を

旭 座

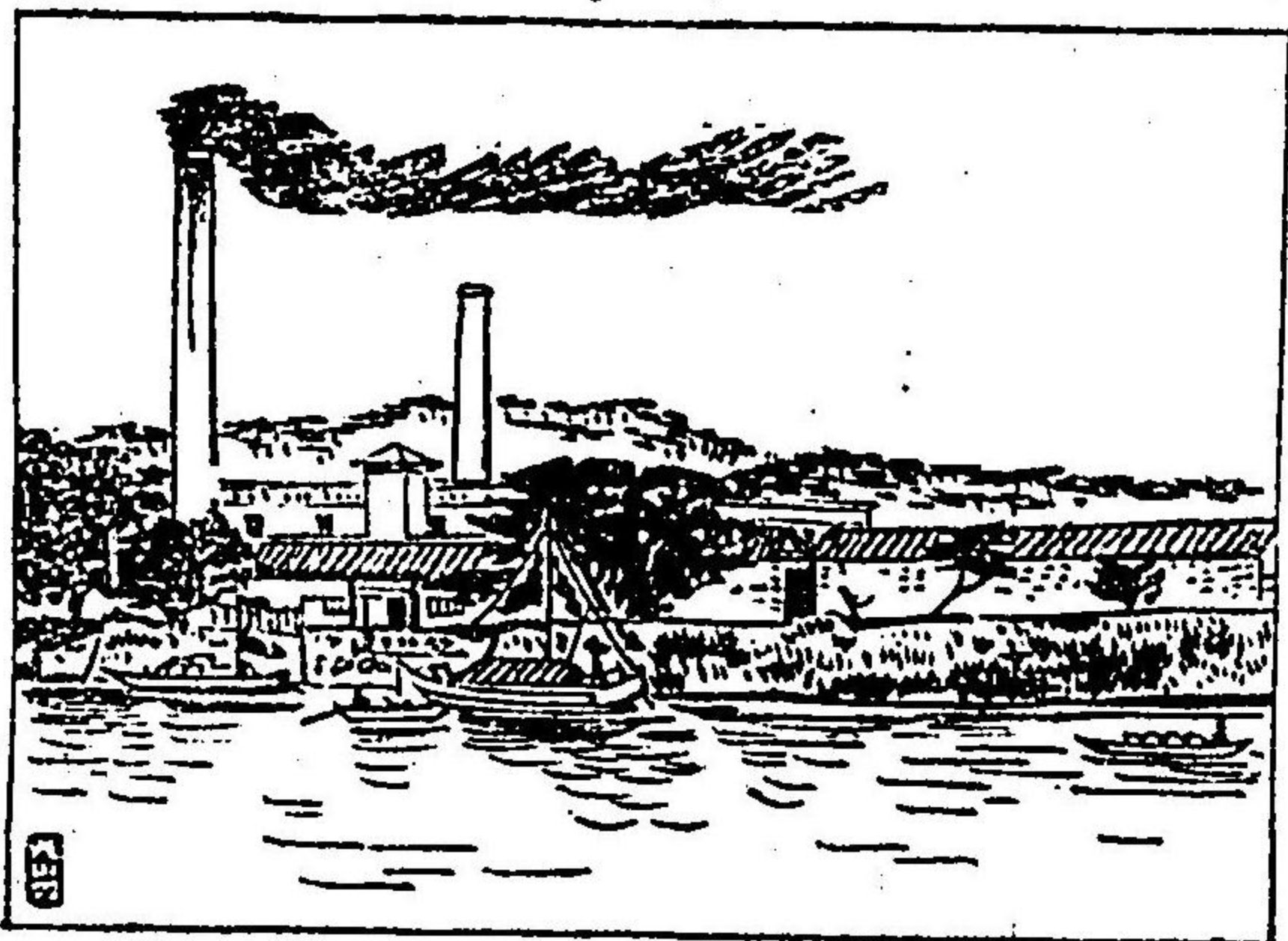
とす結構宏壯を極め旭西の高砂座と相對して岡山東西の
 二大劇場たり「西中島町を辭し中橋を渡りて東せんとす
 る北方途に白聖の一館を認む之を

環翠尋常小學校

と云ふ此近傍多く桃樹を栽へ開花の候自から佳致を備ふに即ち東すれば小橋なり中橋と共に先年の洪水に斷落流失せしもの今や架設新たに成り舊に倍して美觀を増す渡りて小橋町に入り右に折れ進むこと町餘花畑の界に於て道は三方四又に分れ旭涯の堤に沿ふて南下せむか足は直ちに數群老樹の影を踏む是れ即ち

行幸堤

なり此邊由來舟民の住窟たりしも明治十八年 車駕西巡の際毀ちて更に道路を開きしより速かに其觀を更め柳樹數十株を植へ風趣亦た一段の美觀を建て題して行幸堤と云ふ實に聖明の餘澤を仰ぐ可し」其南三四町にして煉瓦石造の大厩あり烟筒屹として中天に聳へ轟聲殿として耳朶を穿さく之花畑なる



岡山紡績株式會社

とす社運益々隆昌に赴き事業念々擴張し數百の職工盡夜

岡山紡績株式會社附織布事業

絶えず其の業を執り内には電氣燈を点じて光明輝々蒸氣機関の運轉毫も休む時なく販路頗る廣くして好聲を四外に馳す殊に近時資本金を増加し織布事業を創始せんが爲め更に其南隣に工場を建築し一個烟筒の増設せらるゝに至り不日にして開業する有らんとす其盛大今より想見す可きなり」堤に沿ふて尙は南下し網濱に至れば

岡山精米株式會社

を見る亦煉瓦石造の一屋にして烟筒空に聳ゆ」益々進みて南すれば一里餘にして旭川の河口三幡港に達す可し再び歩を北に轉じてかの四又街頭に還り之より杖を東に曳けば左方に一大精舍あり門上に「大教院」てふ額を掲ぐるを認む之を小橋町の

國清禪寺

とす寺は池田家の菩提所其の國清の二字は藩祖の諡號に據るものとか幽邃靜雅の別天地境域頗る廣闊にして幾株の松樹鬱茂し寺内清淨庭園些の塵埃を止めず堂宇高潔内に入れは自ら壯麗の風威あるを覺ゆ即ち推して岡山第一の梵宮とす支院二三を有し寶庫亦夥多の書畫を藏し觀る可きもの搦しとせず」該寺の東に道あり沿ふて東に向へば一直線の大道は開かる地を門田屋敷と呼ぶ道を前むの左方に當りて古刹三友寺内に

岡山孤兒院

あり數年前の設立に係り可憐なるなきの孤兒百數名に及び教育感化を授くるの傍ら各自の力を計り能に應じて各種の業務に服事せしめ處世の針路を與ふ」孤兒院より東

行丁餘にして北に入れば

山陽女學校

あり婦女の爲めに高尙の普通學科を授くる所にして其處淑女の此校より出でたるもの少からず」而して前路に復し更に東に進めば上道郡三根村なる

東山公園付招魂社

に達す東山公園は一名を借樂園と稱す地位高燥にして眼界の及ぶ處頗る廣闊近く指願の間に岡山の市街を眺め遠く烟雲の中に兎島の峰巒を望み風光佳絶陽春花笑ふの候節を曳くの遊人群を爲す境内に招魂社あり二基の招魂碑を建て戊辰の亂及び西南の役に戦歿したる忠魂を祀る毎年四月二十六日を以て其の祭典を執行し有志者相謀りて競馬、蹴鞠其他の武技を奉納し且つ晝夜數十番の烟火を揚げ以て英靈を慰む祭儀最も盛嚴に士女給繹布を織るに似たり其の東南に數棟の洋館ありて甍を並ぶ是れ即ち



招魂社

耶蘇傳教師の寓居する所なり」東山の頂上に登れば一廟あり

東照宮

と云ふ是れ昔時寛文二十年備前藩主池田光政將軍の許しを請ふて東照權現を江戸より勧請し神社を此地に經營して奉祀する處正保三年初めて其祭禮を執行し池田氏代々之を尊信す維新以前は今の招魂社の麓に至る迄垣を結びて妄りに人の出入を許さず山門に樹つ下馬の制札等威嚴最も高かりしも今は變じて借樂群遊の地と爲る時勢轉化の然らしむる處」招魂社の北方に方りて

大福寺付大地蔵

あり一丈餘の大地蔵を安置し其名四隣に高し」東照宮の南に接して又一廟あり縣社にして

玉井宮

と云ふ亦是れ高爽雅潔の一神社境内に峽々たる老松あり勁宛たる紫藤あり一は蓋影陰を結び一は裁霞綺を綴る眞に是れ一對の美觀」玉井宮より東南に當りて

瑜伽山

あり松琴寺の有る處幾多の櫻樹と楓樹とは其嬌艶を競ひ花時紅葉の候に至れば深山紅を以て染め成し市民遊樂の好適地たり」瑜伽山の北方に操山あり其間の一溪を

峠

と唱ふ岡山より西大寺に到るの要路にして幾多の旗亭あり岡山の塵界を離れ別に幽靜閑雅の仙境を爲し風流の士常に杖を曳く竹林生ずる所の筈を以て名あり」東山の

東方に聳ゆる一山は即ち瑜伽山の北に當れる

操山 付三動祠

なり三動祠は維新後の建設に係り和氣清磨、楠正行、兒島高德の三公を合祀す和氣、兒島の二公は本州の人之に小楠公を加へたるは池田家の藩祖に縁深きが故なり操山は東山に比すれば眺閣一段の濶大を加へ四圍の風物悉く眸裏に映す「祠を降りて歩を北に轉すれば敷町にして

少林寺 付大五百羅漢

に至る庭園幽雅春秋の遊樂に適す寺前の一字は大五百羅漢を安置する處各像皆な丈餘の長貌姿恰も活きたるか如く其意匠製作の巧妙なる夙に内外人の嘆賞する所なり門に臨めば森々陰深自から畏敬の念を惹く「少林寺の北に當りて有名なる

瓶井山

あり三重の高塔は倚然として山上に屹峙し影は映じて岡山の光景を助く若夫れ旭川の西岸に立ちて之を望まんか宛然京都東山の觀あり「瓶井を辞し西に向へは國道に出づ是れ播磨に通ずるの要路

沿ふて南し森下町、古京町、片上町を過ぎ大黒町に至りて西に折れ小橋町を経て再び前路を辿りて旭川の三橋を渡り西岸橋本町に着し川に沿ふて南下すれば町餘にして右方に倉庫様の大廬を認む之れ即ち

第二十二國立銀行

なり行は藩政の時代納貢の米穀を貯積するの倉庫たりしもの結構極めて堅牢而して業務の能く整頓し實業界に利

便を與ふるの巨大なることは關西地方に於ける幾多の銀行中稀れに見る處なり「尙ほ南下して片瀬町、久山町及び上内田町を過ぐれば其盡くる處の右に

清輝尋常小學校

あり校舎は火災後の新築に係り敢て他の校舎に籌を輪せざる處なり「益々南に進みて船頭町を一線に二日市町に至れば旭川に沿ふて亦一の

魚市場

あり魚市場の南一町許の右方に位する一構の巨屋は

岡山監獄

とす既決の罪人を拘囚するの獄舎にして中に各種の工場を備へ囚徒皆百般の工業に服役す就中錦莞莖の如きは美麗鮮明の紋花を織り一個妙巧精緻の美術品聲譽を天下に擅にす「之より尙ほ南下すること數町なれば右方に一大罪表の聳ゆるを見る是れ即ち七日市村なる縣社

春日神社

なり境地頗る廣く祠後の小舎古來鹿を馴養す一隅に藤架あり年を経ること最も古く盛花の候紫白互に鮮麗を闘はし亦是れ幽閑の一仙境たり「春日宮を去り左折前路を北行すること十數町上内田町の中央に至り更に左曲して西行第二の十字街頭に達すれば菓子製造の家屋軒を並べて接するを見る是れ藤野町、平野町の境界たり若夫れ尙ほ西して止まざらんか街の盡くる處小原町に光清寺あり近年此寺の附屬地に

岡山感化院

を設立し、若少年を集めて之に正業の途を授け、日向は淺きも、効驗漸く顯はれ、感化の露に沾る者尠なからず」又若し平野町を北せんか天瀬に

耐火煉瓦製造所

ありて烟突空に煙ゆるを認む場域頗る廣く、製造の煉瓦は大に世の高評を博せり」其北に對する一區の建築を

明習館

と稱す天瀬に在り是れ岡山監獄に奉職する看守押丁等の集まりて文武を講習する處」館に接する東に

錦莞菴製造所

あり錦莞菴は磯崎眠龜なる人の發明せる處今や岡山に於ける一個の美術的名産となり大に外人の嗜好に投じ海外の需用日を追ふて其數を増加す此場は即ち眠龜の設置する所」路を隔てて之に對する東に黒門を認むるもの

岡山米取引所

なり是れ亦天瀬に在り取引所は初め米穀市場と稱せしが近年取引所と改む日々米商相集まりて市價を定め取引最も盛んに景氣常に賑はしく將に近日を以て株式の賣買を創始せんとす」北に向ひて進み可興町(天瀬の内)に入れば割烹店は兩側に軒を並ぶ其の最も大なるを

花月亭

と云ふ妓貳拾餘名を貯へ歌舞止む時なく家屋宏壯岡山三大樓の一たり庭園に數十株の櫻樹あり飽陽四月軟風雷を破らば爛熳無情の花は綺羅鮮麗の花と掩映し佳趣實に充溢」花月亭を北に進む數歩なれば身は忽ちにして十字街

頭に立つ此地は國道屈折の直角隅東すれば京橋に達す可く、畔を北方に凝らせれば大廈巨屋櫛比し視線の極まる處遙かに七層の高閣と縣廳の白壁とを望み西又大道の洞開して兩側に商店の鱗次するを見る電燈の線電信の線電話の線は縦横交互幾十餘人肩は人肩と相摩し車轂は車轂と相摩ち雜沓般賑實に是れ岡山に於ける商業の中心繁華の燒点たり佇立數分時北に行けば紙屋町を通過して榮町に入る其右角に粉壁三層の洋館あり之を

岡山警察署

とす高く天外に聳へ四方より望見す可し」其北東に

鐘樓

あり是れ藩政時代の遺物建築の堅牢仰ぎ見て驚くに堪へたり晝夜時を報じ水火亦警を報じ一抽鏗然其の聲全市に聞ゆ」其北一町に足らざる邊榮町の裏筋に

濟美館

あり岡山警察署に奉職せる巡查の相會して文武の道を講習する處」榮町の表筋なる西側に新聞社あり

山陽新報社

と云ふ明治十二年の創立獨立不偏の新聞紙にして社運益々盛なり由來岡山の地新聞紙の起仆頗る多く年月の久しき此數を濁るもの唯山陽新報のみ榮町を過くれは下の町にして其西側に

岡山郵便電信局

あり素と民家を用ゐたりしも祝融の災後新に粉壁の洋館を築造し結構最も宏壯にして地方の郵便局中他に類を求むるも稀なる處」更に北に中の町上の町の塵烟を踏めば

自由舎

あり三好野花壇と並び稱せらるる著名の旅舎にして貴顯紳士の投宿する者多く其北方に一團の新地を見る此地素と岡山縣病院の有りし處拂下げて民有地となり新に土木の工事を起し一條の廣路を開通し兩側に商舖を建造し今や變じて繁華なる一個の新街を形成す其東に接する商地の一廓を

亞公園 付常盤木

とす園の地は固く是れ岡山縣病院病室の設けられたる處近年に至りて岡

山の一商片山儀太那獨力士木の工を起し數萬の資財を投して新に一區の家屋を建築し衆庶群遊樂樂の地と爲す園の中央に七層の高樓あり高さ一百餘尺鳥城の天主閣と對して互に俾睨を送る呼んで集成園と云ふ若夫れ登樓四顧を投ぜんか南は兒島の濠濱長白一帶の灣浦を眺む可く西は廣茫無涯なる御野の田園を望む可く北は半田の諸

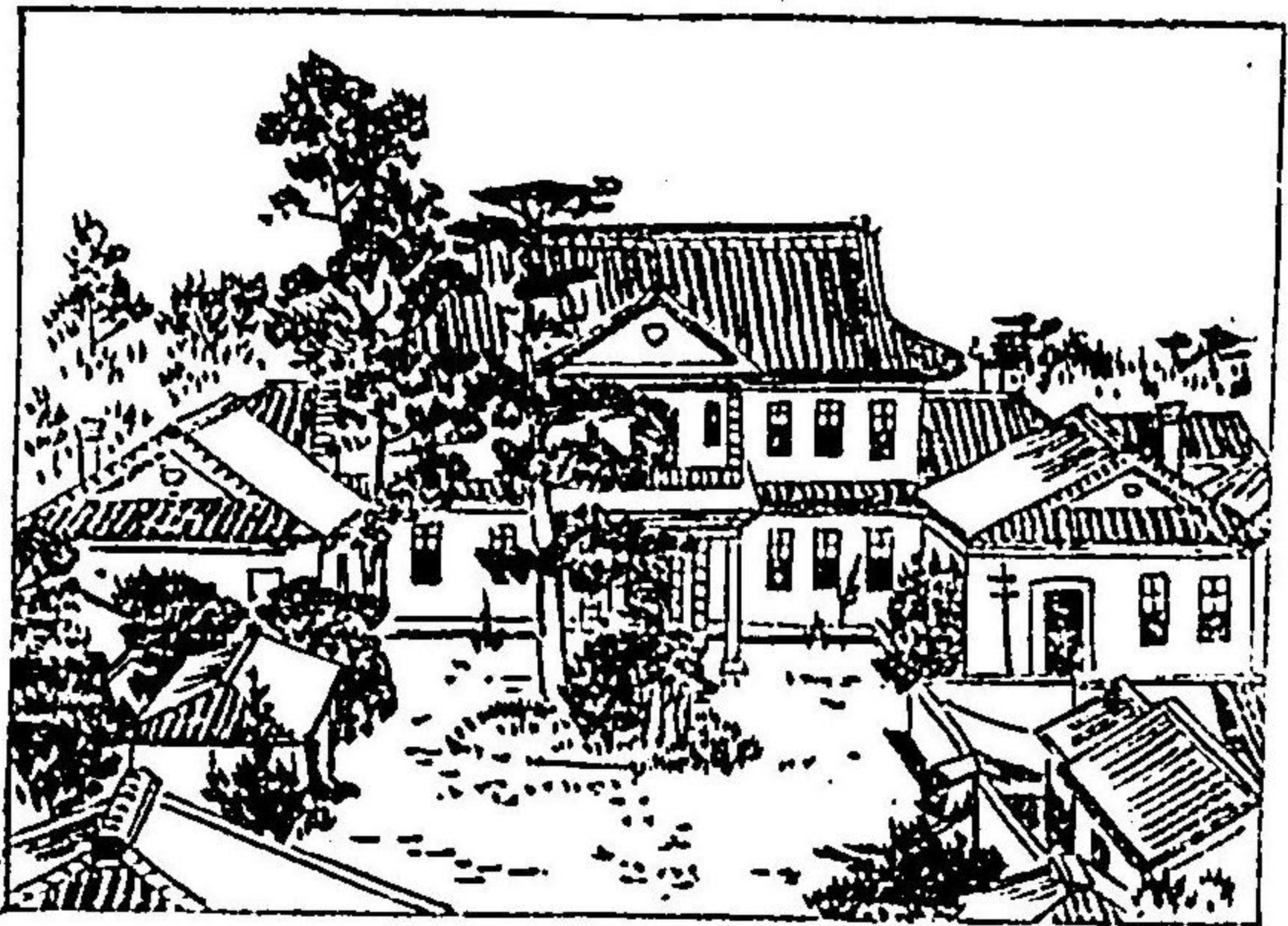


亞公園集成館

山に對し東は東山の翠氣を收む眼眸を脚下に垂れんか岡山市街の冬景は宛然一幅の寫真畫となり悉く目睫の中に映じ北に三層の一大館あり即ち園中第一の結構常磐木と稱し料理屋兼旅舎たり室多くして悉く潔美來り投するの客頗る多し其南に一亭の待合舎あり天神茶屋と名け汁粉を以て賑はる常磐木の東に小徑を隔て天神座てふ小寄席あり園の南東は一帶に屋宇接次し中央一劃の地には幾十株の樹木を植へ之に向ふて殊突運動場あり遊興散樂の具略は備はり岡山市中に於ける最好の遊憩場たり「亞公園の北方一路を隔つる弓之町の丘上に白聖粉壁の洋館あり館壁の正面に鏤めたる金色菊花の紋章と共に日光に映じて柔爛の美觀を呈するは

岡山縣廳

なり丘は昔時天神山と稱し一の沙山の頂に於て嶺上に天満宮を祭りたるも今は遷して岡山神社内に奉祀す廢藩置縣の制下るや其當初山麓の士邸を使用せしる後此地に新築して移轉し三國の政務を統轄す地盤最も高く境



岡山縣廳

内廣濶にして清淨結構宏麗にして爽潔雄を七階樓と號ふ亦是れ一個の壯觀廳の東北西三方は白蓮の濼を以て繞らし開花の候は藥氣衣袖に溢れ山上數株の老楓は更に一段の清景美趣「縣廳の門前を東に石關町に行けば忽ち一の神社を認め華表の上に銅額を掲げ題して

岡山神社

と云ふ由來最も遠き古祠にして沿革亦實に多く池田家の尊信する處たり今の社殿は過ぎし元文五年池田繼政の營造に係る初め岡山城内に在りて岡山殿と稱し後又山麓に移して阪下と名け明治元年單に下宮と呼ひしが同十六年に至りて今の名に改む明治七年格を縣社に列せらる社内頗る廣く附屬の末社亦尠からず貯藏の寶物觀る可きものに富む」岡山神社を辭し再び縣廳の門前を過ぎ西一町すれば正面に高城を以て囲むものは是れ即ち

岡山地方裁判所 付岡山區裁判所

なり弓の町に屬す境域甚だ廣大正門は南に面し東方に人民通行門を開く近年築造したる洋風模倣の家屋たり」此道を北行すること數十歩左傍に

加島銀行岡山支店

あり通常の民家を假用す」其北に連なりて舊藩士の邸宅を倣り内に

私立玫瑰學校

を設置す」尙ほ少しく進みて西に折れば

天主教會堂

あり夫より左折兩三回を経て東中山下の北頭に出づ東中山下は西中山下と共に南北に並行する長き一直線の縦街

にして兩側の家屋は東西共に是れ舊藩士邸宅の遺物を以て滿たさる東中山下に

千歳座

あり初め心明座と稱せしもの市の中央を占めたる寄席なり」該座を西し直ちに南に折れば西側の中央に

岡山基督教會堂

の峙つを見る高爽清麗の洋館にして近年の新築に係れり」其南方の東側に

岡山縣巡查教習所

あり」尙ほ進みて南方に至れば西側に

岡山市役所

あり舊藩士の邸宅にして規模宏大の家屋なれども固より舊時の建築」市役所に對する東側の一館を

中國民報社

と爲す是れ中國進歩黨の機關たる中國民報を發行する處創業尙ほ三年に滿たさるも江湖の眷愛は日に加はり社運漸く昌盛に赴くの勢あり」東中山下の盡くる處新西大寺町の東端を横ざり尙ほ南行せば道は左右に分れて正丁字街を爲す地を天瀬と云ふ左東一丁すれば南に當りて

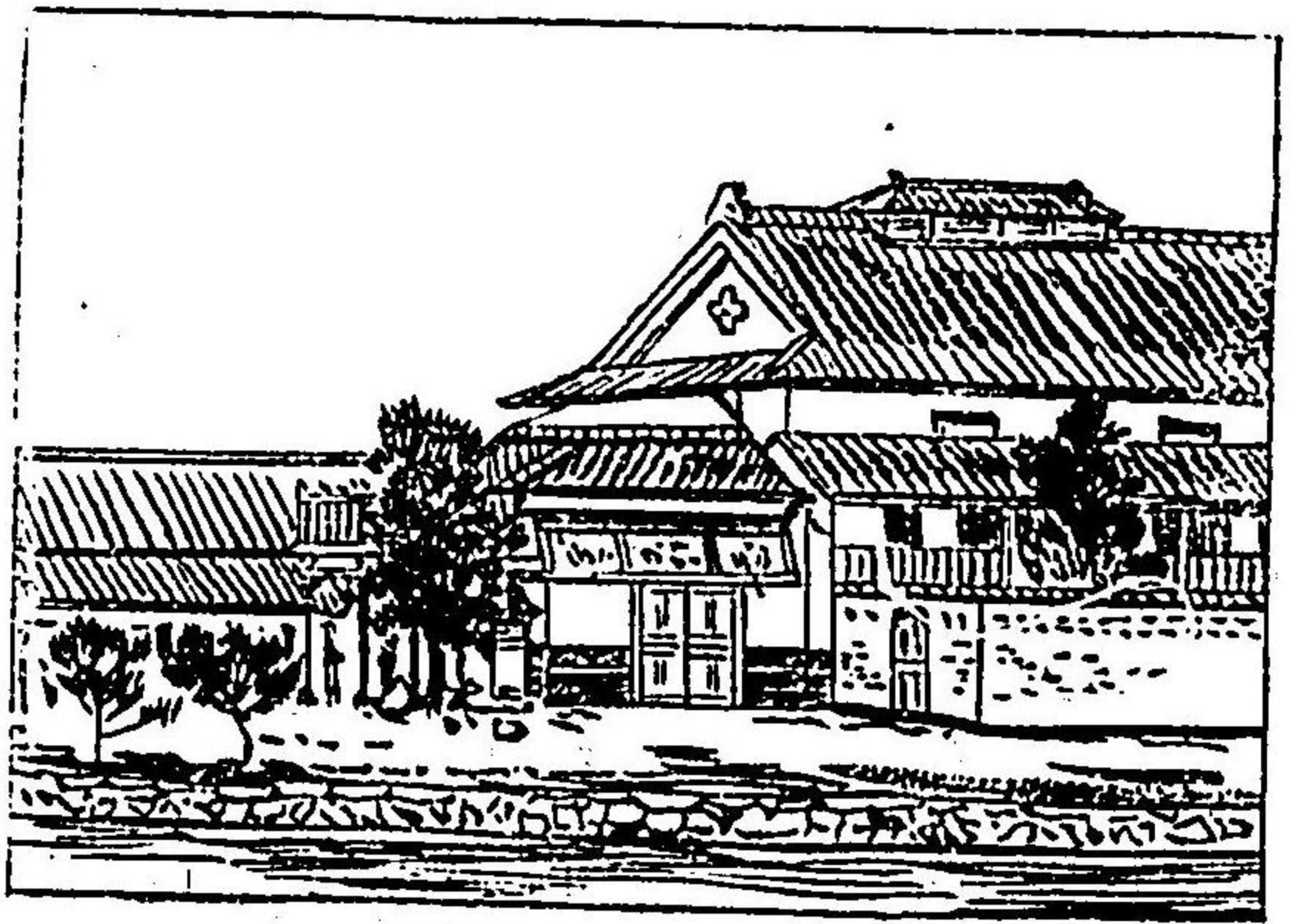
巴玉座

あり近年の改築にして北千歳座と相對し岡山の二大寄席と稱せらる」右西凡そ一町斜に北西に當り大雲寺町に

高砂座

あり煉瓦石造の高館旭座と同時の建築にして裝飾の美体裁の佳指を岡山劇場の第一に屈す」大雲寺町を西するこ

と敷丁道は分れて歪十字形を作る益々西行すれば西川の石橋あり橋を渡れば庭瀬口にして御野郡大供村に屬す是れ玉島、笠岡を経て備後に通ずるの縣道たり「大供村より廿餘丁の西に位し縣道の南に方り中野村に



高砂座

黒住神社

あり神道黒住教の教祖たる黒住宗忠の生地にして近年壯麗の大祠を建築し其名最も世に顯はれ四方より信徒の參詣する者常に絶えず又歪十字街を北に折れ濱田町、高砂町を経て仁王町に入れば忽ち看る正面に一大巨刹の峙立するものあるを即ち西國に其名の著はれたる佛住山

蓮昌寺 付大曼荼羅

なり寺は東田町にあり開祖は日像上人と言ふも其實は康正年間大覺大僧正妙實聖人の創立に係るものなり本山は京都の妙覺寺なり七堂伽藍を備へ又た寺中に八個の支院あり境内に在る守護神を最尊一丸大明王と云ひ參拜者は晝夜燈を接す此寺に藏むる第一の寶物は大曼荼羅にして七拾八枚の唐紙を以て成り日像上人の真容なり毎年陰曆三月廿八日より十二日間開扉して五穀の豊稔を祈す四方より參詣する老幼男女群を成して嬉集し雜沓喧嘩香火絶ゆる時なし堂宇の構造最も宏大堅牢を極め地域亦極めて廣闊蓋し近國に類を求むるも得ざる處本堂の右方斜に高く聳ゆるものは三重の尖塔にして好趣を添ふる一段又九本堂の背後に迴廊を架して客殿に通ず近年假用して岡山市會の講堂に充て其他諸種の會合を開く「寺を辭して仁王町の南極を左に常盤町を東して新西大寺町に入り又九左折北行せんとする一角隅の處西中山下の南端に

松の江樓

あり岡山三大樓の一にして亦貳拾餘名の藝妓を貯へ黒木の大門宏壯なる家屋に加ふるに清雅なる庭園廣潤なる樓臺を以てし自然の品格は自ら他の二樓を凌ぐもの似たり若夫れ中秋拭ふか如きの清宵此樓臺に白を引かんか一團の鏡輪は冷かなる浮光を放ち明晃々たる玉姿は嬌艶々たる紅裙朱潮の花顔に映し個中の光景一層の美風趣一段の妙「西中山下を北に上る一丁餘にして東側の土邸に

岡山簿記學校

を設く數年前の創立に係る一個専門の私立校なり「其稍や西側に一校舎を認む

深抵尋常小學校

と稱す明治二十四年の新築にして宏大淨潔の構造最も廣潤なる運動場を有す「其北方の東側に

岡山日報社

あり縣下自由黨の機關たる岡山日報の發行所にして創立以來數多の星霜を経今や山陽新報、中國民報と共に鼎足の勢を爲す」尙進みて北行すれば西側に

蓮門教院

あり信者の寄附金を以て近年新築したる堂宇規模亦頗る宏壯なり」尙は進めば東側に

神宮教會所

あり」其相對する西側に

大隊區司令部

あり舊藩士の邸宅を假るもの」其北亦藩士の邸を假り

岡山收稅署

を置く」行きて西中山下の北盡頭最も廣闊なる境域を劃して中に數椽の屋宇の並峙するを見る之を

岡山縣尋常師範學校

の有る處と爲す水造の黒欄は長く延びて南西の二方を繞り門を入れば十數幹の老松鬱々森々として茂林を結ぶ半

岡山縣尋常中學校

球の小池あり渡れば正面講堂の上方楯間に扁額を掲げ學校の二字を大書せり蓋し是れ往古の紀念物其左右に各長き一館を建つ東なるは是れ師範學校西なるは是れ中學校其背後に方りて東西に長き二層の屋舎は即ち師範學校生徒の寄宿舎たり而して境の南東に位する宏爽なる新築の屋宇は之を附屬小學校及び幼稚園とす一切の校舍素樸雅潔最も見るに足る是れ昔時寛文八年藩主池田芳烈公光政此地に藩學校を創設し文學武技講習の道を開きしより明治の今日に至る迄凡そ二百有餘年の久しき未だ替て啞

誦讀の聲を絶たず維新の後普通學校と稱し専途洋學を講究し大に學風を一變せしも後又官府の保護と離れ更に名を遺芳館と改め遂に轉じて師範學校に用ゐる中學校も亦此處に設置するに至れり今や改築修繕復た往昔の舊形を存せずと雖も講堂の莊嚴威風を備ふる樹木泉水の青苔古色を帯ぶ想ふ當時戰亂の後を享け殺伐の腥氣尙未だ銷せざるの間に立ち遠く師を近江聖人の門に聘し經世の學を修めしむ流徳遺澤千載に傳ふと謂ふ可く其岡山中學校の如き全國有數の地位を占め歳々邦家有爲の逸才を輩出すること多く以て名聲を四外に馳するもの豈に夫れ緣由莫からん耶聞く中學校は客年岡山縣會一致の決議に據り地を内山下城内の空域に相し更に宏壯なる校舍を新築し即ち將に本年を以て工事に着手する有らんとす教育の發達振興實に盛なりと謂ふ可きなり」校を出でて西に新柳川筋に至り更に小徑を西に歩み丸龜町に入れば中央の東に

金刀比羅宮

あり諸客の歸からざる處」此街道の西に並ぶを野田屋町と云ふ

柳川座

の在る處たり此劇場は高砂座、旭座の次班に列するも新築後面目を改良し亦見る可きあり」柳川座より南三町許にして其西側に白木格子の一構を認む軒燈に芙蓉堂頭を畫く是れ即ち

一富士

にして岡山三大樓の一貯ふる處の藝妓亦多く近年新に建築したる青樓粹美を盛くし酒尻を極む地徧在するを以て春花の艶秋月の清他の二樓に一着を輪す然れども朔風凜

○山陽鐵道旅客貨錢表 (明治廿八年三月改正)

山陽	上			下		
	上	中	下	上	中	下
岡山	二五	二二	一五	二五	二二	一五
長門	三〇	二七	二〇	三〇	二七	二〇
瀬戸	三五	三二	二五	三五	三二	二五
和氣	四〇	三七	三〇	四〇	三七	三〇
吉永	四五	四二	三五	四五	四二	三五
三石	五〇	四七	四〇	五〇	四七	四〇
上郡	五五	五二	四五	五五	五二	四五
有年	六〇	五七	五〇	六〇	五七	五〇
那波	六五	六二	五五	六五	六二	五五
龍野	七〇	六七	六〇	七〇	六七	六〇
網干	七五	七二	六五	七五	七二	六五
姫路	八〇	七七	七〇	八〇	七七	七〇
阿彌陀	八五	八二	七五	八五	八二	七五
加古川	九〇	八七	八〇	九〇	八七	八〇
土山	九五	九二	八五	九五	九二	八五
大久保	一〇〇	九七	九〇	一〇〇	九七	九〇
明石	一〇五	一〇二	九五	一〇五	一〇二	九五
舞子	一一〇	一〇七	一〇〇	一一〇	一〇七	一〇〇
須磨	一一五	一一二	一〇五	一一五	一一二	一〇五
神戸	一二〇	一一七	一一〇	一二〇	一一七	一一〇
兵庫	一二五	一二二	一一五	一二五	一二二	一一五

(摘要)

- 一七十哩未滿旅行の切符を所持する乗客は何の驛にて下車し再び後の列車に乗積を得べし
- 一七十哩以上旅行の切符を所持する乗客は左の三驛に

限り下車し切符期限内再び後の列車に乗積を得べし

姫路 岡山 尾道

一切符通用期限左の如し

- 五 十 哩未滿 一日
- 五十哩以上百哩未滿 二日
- 百哩以上貳百哩未滿 三日
- 貳百哩以上三百哩未滿 四日

一手荷物に單に旅具のみを指し上等客一人に付き百斤(十六貫目)迄、中等客六十斤(九貫六百目)迄、下等客三十斤(四貫八百目)迄無貨とす

○山陽鐵道神戸驛ヨリ官線ニ接続スル旅客貨錢表 (下等貨金)

大坂マデ	貳拾	名古屋マデ	壹圓四拾壹錢
京都マデ	四拾七錢	濱松マデ	貳圓八錢
馬場マデ	五拾七錢	静岡マデ	貳圓五拾六錢
草津マデ	六拾四錢	横濱マデ	參圓五拾六錢
米原マデ	九拾貳錢	新橋マデ	參圓七拾六錢
大垣マデ	壹圓拾參錢		

○瀬船貨錢表 (明治廿八年三月一日改正)

岡山ヨリ	上		中		下	
	等	等	等	等	等	等
神戸行	壹圓貳錢	六拾八錢	四拾五錢	四拾五錢	四拾五錢	四拾五錢
大坂行	壹圓貳拾錢	八拾錢	六拾錢	六拾錢	六拾錢	六拾錢
小豆島行	參拾貳錢	貳拾壹錢	拾四錢	拾四錢	拾四錢	拾四錢
高松行	四拾五錢	參拾錢	貳拾錢	貳拾錢	貳拾錢	貳拾錢
多度津行	九拾錢	六拾錢	四拾錢	四拾錢	四拾錢	四拾錢

○岡山宿屋組合宿泊料及支度料一覽表

	一 等	二 等	三 等	四 等
松	宿泊料參拾五錢 支度料拾七錢	同 貳拾七錢	同 拾八錢	同 拾四錢
竹	宿泊料五拾錢 支度料貳拾五錢	同 參拾五錢	同 貳拾錢	同 拾七錢
梅	宿泊料壹拾錢 支度料五拾錢	同 參拾五錢	同 貳拾錢	同 拾七錢

○岡山組合人力車賃錢表
 一平道は一里に付一人乗六錢以内、二人乗八錢以内、夜行又は雨雪の時夜の十二時前は三割以内、十二時後は五割以内を増す
 一日を約して雇入るゝ時は市中は一日に付五十四錢以内、郷中は六十六錢以内
 一乗客の求めに従ひ待受をなす時は一時間に付三錢、一時間に滿ざるも三十分以上は同段

京橋元標	岡山停車場
萬町マデ 三錢五厘	森下町マデ 六錢以内
停車場マデ 同上	大道マデ 同上
兵團マデ 同上	二日市町マデ 同上
二日市町マデ 同上	庭瀬口マデ 三錢五厘
七番町マデ 同上	京橋マデ 同上
縣廳マデ 同上	彼樂園マデ 同上
野殿町通り出 同上	兵團マデ 同上
石村口マデ 同上	御野郡藤井村マデ 同上
庭瀬口マデ 同上	縣廳マデ 同上
花畑櫻橋マデ 同上	以 貳錢五厘
大道マデ 同上	以 貳錢五厘

生徒募集廣告

●入學期日 期日ヲ定メズ臨時入學ヲ許シ晝夜ヲ論セス教授ス

●學 科 家計、官用、會社、銀行、工業、農業、保險、醸造、鑛山、鐵道、商船、受負、貿易等トス

●部 課 生徒ヲ分テ寄宿、通學、特別監督、速成、自宅獨習、夜間、日曜生ノ七部トス

●卒業生徒 品行方正學力優等ノ者ハ官衙商店銀行會社員ニ紹介ス

●帳簿組織 一般會計帳簿組織ノ依頼ニ應ズ

●出張教授 土地ノ遠近ヲ問ハズ貳拾人以上ノ團體アレハ出張教授ノ依頼ニ應ズ

●巡回教授 廣ク商家ノ便利ヲ謀リ各自宅ニ出張シ教授ヲ爲ス

本校贊助員姓名 (イロハ順)

- 花房端蓮君 西浦幾美君 岡田 純夫君 小田 安正君
- 岡田太郎君 香川真一君 高田音次郎君 手代木勝任君
- 佐分利隆君 光岡金雄君 光藤 龜吉君 新庄 厚信君

岡山市西中山下

縣認可 岡山簿記學校

和漢洋藥醫用理化學用器械

繪具染粉西洋酒類諸家賣藥

藥用酒精全阿片特許販賣藥

局用量器衡器眼鏡類

岡山市大字中之町

貳拾三番地

藥劑師 三宅力松商店

三

醫藥用酒精販賣

皇漢洋藥繪具理化學醫療用器械
化學工藝藥品洋酒粉粧料鑛物標本類石鹼各種
各國有功效諸賣藥大販賣所

特許阿片賣捌所

岡山市紙屋町角
茶石堂赤木藥館

三

岡山市紙屋町角 茶石薬館赤木源次郎發賣三藥廣告

米國獸醫學士エム・ダック先生實驗証明
保有效 ナルス 定價箱入三回用拾五錢



牛馬六素ヨリ犬猫ニ至ル迄凡テ
獸類ノ疾病全治セザルモノナシ
殊ニ牛疫トテ農家ニ恐ルベキ
モノモ一度服用セシムニバ治
否分明スベシ如何ナル難病ト
雖五箱モ用ユニテ全治奏功驚
クモ
其効實ニ「ナルス」ノ名ニ背
カザルナリ

九毒解

定 一日分 金五錢
價 七日分 金三十錢

逆上症、りようまぢす、
癩毒、瘡毒、小兒胎毒、
凡ての毒とさらい下す
最大長藥なり

如何なるつんぼりに
ても三週間服用すれば
は全治請合保証す

あふん大妙藥 定價 一日分 三錢
廻リ 二十錢

婦人二三十年ぶらゝの人の人にて、三
廻り御服用あれば精神爽快活潑強壯
となること 夢々御疑あるべからざ

紳士及び聘妓家は謝
絶する旅人宿の廣告

一 弊宿は上等宿に非らず故
に貴顯紳士は堅く御斷り
申候

一 弊宿は主人が偏屈にして
藝妓娼妓等を聘する旅客
は堅く御斷り申候

右の貳ヶ條御承知の上は陸續御來宿被下度
就ては客引及び車夫と約束など致申さざ候
に付或は弊宿の悪口等申べく哉も計り難く
候らへども夫等に御頓着なされまじく候前
申通り偏屈家だけ宿泊料の如き御取扱のど
とき商法氣を離れたるところを御來宿の上
とくと御味ひあらんことを

岡山市荒神町
旅人宿 大 新

西大寺町中はと甬へ入る

岡山市大字中之町廿六番邸

諸金物販賣店 尾谷半三郎

營業課目

- 建築用金物
- 機械場用金物
- 諸職工用金物
- 各種機械取次販賣
- 銅、真鍮、地金
- 金器具
- 西洋鉄鋼
- 洋釘
- 刃物類
- 真鍮、銃、鎗物
- 諸器械付属品
- 金庫
- カン
- 舶來塗料
- 機械用礦油
- 舶來金物各種

火災保險
盜難防禦

金庫

詳細直段表御入用ノ節ハ御
通知次第御送り可申上候

右ハ彼ノ有名ナル東京竹内善次郎

井ニ大坂矢野萬太郎製造ニ係ル金

庫特約地方一手賣捌仕居申代價之

義ハ総テ本店ト同様之割引

ナ以テ御注文ニ應シ可申猶現品數種下店ニ

相備居候間御一覽之上御用向被仰付度奉悃

願候

岡山市大字中之町

尾谷半三郎商店

皆悉具道入嫁持長笥簞
 具道中外其類具建棚戶并
 賣 販 價 廉

商買賣物古通座玉巴瀨天字大市山岡國前備

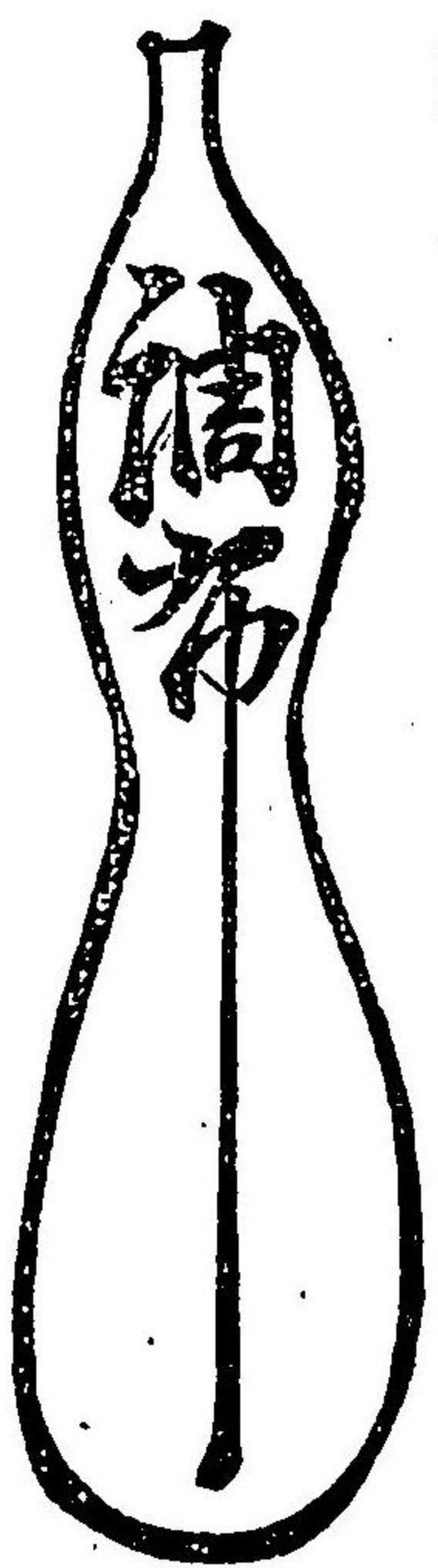
達 直 崎 小

藤 佐
 產 物 前 備
 地 帶 田 眞 倉 小
 賣 販 價 廉
 程 中 側 東 町 〵 中 市 山 岡
 店 商 平 喜 藤 佐
 店 商

岡山 調布

名産 井ニ生干菓子
點煎茶器 宇治御茶
伊部焼色々 舶來小間物

父祖傳來と申候ては嗚呼がましき告條なが
ら宛に角代々各位の御愛顧を以て御高評を
蒙り候調布其他生干菓子の義隴を得て蜀を
望むの奮發仕一層改良を加へ風味も素より
注意に注意仕至極の廉價を以て御高需に應
じ申候茶井に器物等も精々相働き候は申す
までも無之此度相開き候舶來小間物の義も
他品同様勉強仕候間舊に倍し御目標の瓢の
蔓の續々御用被仰付度伏て奉祈候
屋根の上に目印あり



岡山縣岡山市西大寺町北側

元祖調布 間野金花堂

大勉強廣告

國産隈濃染

絹布類一切

紋附小紋

諸會社 諸商店

各工場 各工夫

御印入法被

其他數種

弊店義數年來右營業ニ從事仕居候處花主諸
君ノ高評ヲ博シ日増ニ隆盛ニ趣キ候段辱ナ
ク奉鳴謝候就テハ本年ハ尙一層奮發シ染色
ノ撰擇ヲ嚴ニシ染方ニ注意ニ注意ヲ加へ大
廉價ヲ以テ速ニ調達可仕候舊ニ倍シ續々御
注文之程奉希望候敬白

備前國岡山市大字濱田町

九拾三番邸

郡屋事

太田鹿次郎

東京形

御足袋仕立所

歩物一切其他諸彦之應

御好調進仕候

岡山市大字山崎町四ツ角

北へ入西側三軒目

清水屋事

清 小山嘉太郎

足袋

附屬品種々

洋傘

綿子一ル

染手拭

紅黃木錦

晒金巾

天竺木綿

シヤツ

各種

履物卸賣

岡山市新西大寺町

茶 中川治郎平

御

岡山市大字山崎町
四ツ角東へ入

旅 西國屋しげ

館

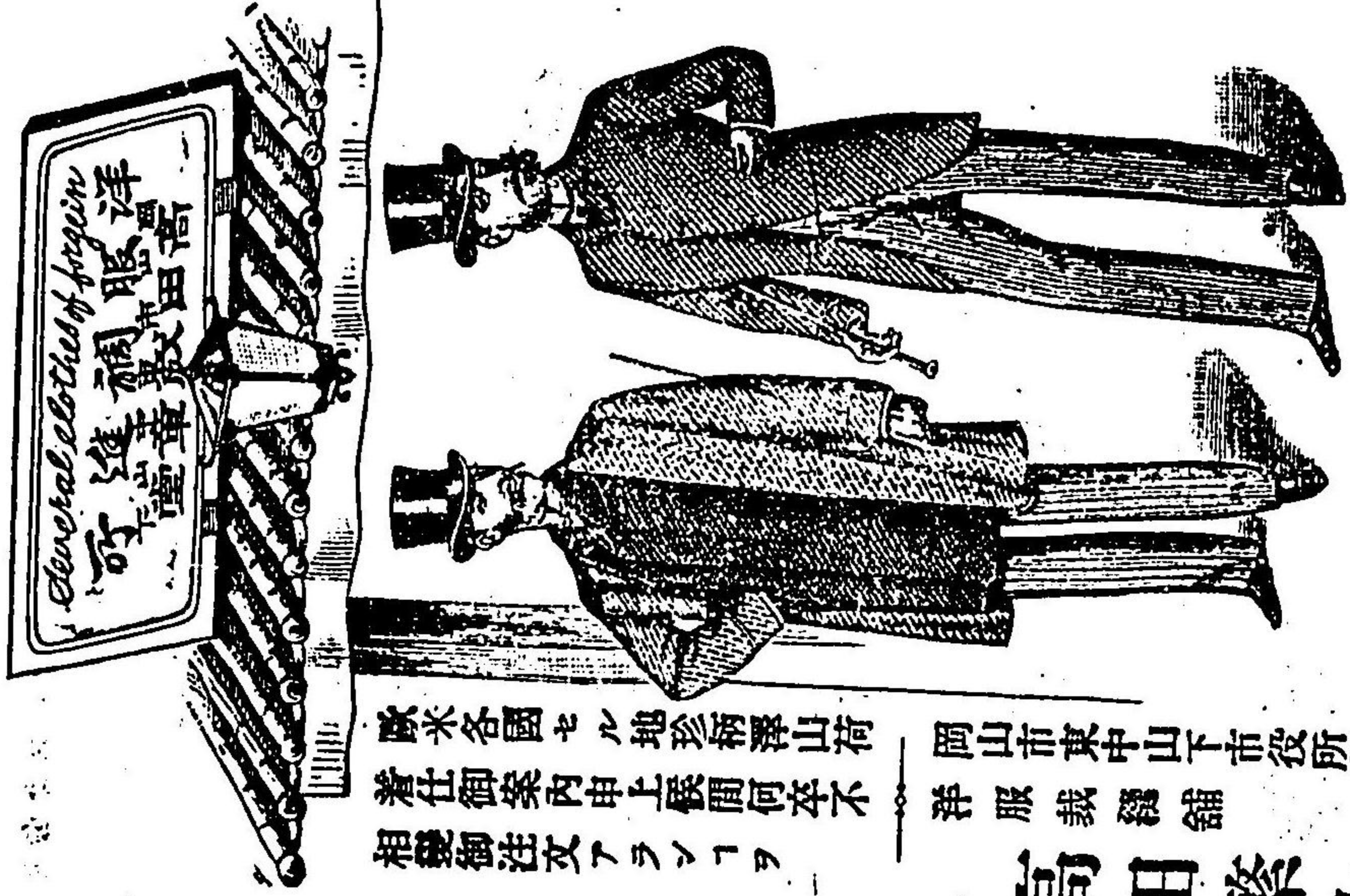
因幡伯耆出雲美作備中
其他各地方へ御引合宿
并に御便利を計り人力
車引合仕候
舊城へ三丁後樂園へ六
丁ステーションヨシへ三丁
宿よりくわしく御案内
仕候

荒 嫁 度
物 入 外
塗 道 大
物 具 勉
卸 數
商 品 強

岡山市山崎町

石井安兵衛

洋服大勉強廣告



歐米各國セル地珍稀洋山荷
 新仕御案内申上候間何卒不
 相續御注文アラソトヲ

岡山市東中山下市役所側
 洋服裁縫鋪

高田繁太郎

齒科治療廣告

- 金銀ゴム及ヒセルロイド床陶器義齒
- 繼續齒
- 不正齒橋架
- 齒石掃除
- 金銀ゴム補欠充填
- 口中ノ臭氣及ヒ排除
- 其他口空齒齦病診察治療ス

私儀多年齒術ノ業務ニ從事シ充分經驗ヲ重
 子施術ノ巧妙ナルト患者ニ接スルト丁寧ト懇
 切等ヲ世評セラレ紳士紳商間ニ信用厚ク私
 現住ノ處ニ開業セシハ數年前ナリシガ今日
 ニ至ル迄一ノ惡評ヲ聞カザルハ私ノ篤實ト
 治療施術ヲ研究シテ其功ヲ得タルノ妙ナカ
 ラサルトニ依ル社會ノ諸君齒術ノ話アラバ
 佐々木齒科治療館ニ就テ御試ミアランコトヲ
 希望ス

岡山市天瀬大字新西大寺町

齒科専門 佐々木初次郎

今 近藤岩次郎

岡山市瓦町西詰
岡山縣備前國

并ニ
菓子小賣

洋和
砂糖商

我備前産斗干瓢月白魚白萬萬

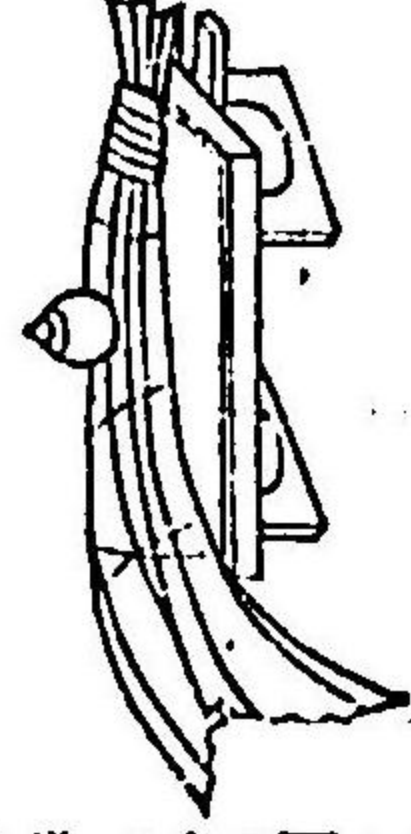
大日本備前國製造本家下店製造宛斗他ノ製品トハ異ナリ特ニ昨年亦
リ製造法ニ注意ヲ加ヘ暴中ト雖モ蟲害ノ患ナシ

祝御珍各國
儀進物品敷産

外有切一



國大
擲賣萬



明一治八年八月廿八日
店物價有候間
店則改正
御一見ノ上賣買
度外勉強仕
時々岡山山陽
中國兩新聞ニ
多少ニ不
合ノ程奉希

產陸海
屋問物乾



大日本備前國

岡山市抵屋町新町通

山部嘉七

拾四番邸

疊表問屋

蔭青蔴

荒苧

魚り布るい

大勉強

岡山縣備前國岡山市

五町西詰北側



櫻田幸右衛門

●煙草入類

卸小賣

●萬履物

安	價	販	賣
現	金	取	引
商品略目	弗入	眼鏡	羽織紐
パイプ	其他各種		

倉山田幾次郎

岡山市天瀬巴玉坐
西隣リ

清酒正宗銘の起因

抑も銘酒正宗は今を距る大凡一百七十年前即ち享保年度創りて醸造せし清酒にして爾來拮据經營釀法を改正すること爰に數回循て清酒を醸生し漸次購買諸彦の嗜好に適し加るに弊家の注意周到なるに因て大に世上の信用を博し文化年度に至ては業已に正宗の酒銘は全國に普及せり蓋し其當時酒造場を攝津國菟原郡魚崎村及び同國武庫郡西の宮町の兩所に設置し専ら釀法改良に孜々として怠らずと雖も頗年西の宮町酒造場に於て醸生する清酒の品位は魚崎村酒造場に於て醸生する清酒に優れり均しく釀法にして其醸生する所の酒質に優劣あるべき謂れなし必ずや其因て起る原素なかるべからず家父其原素を探究せんと欲し夙夜焦慮し措く能はず千思万考漸く釀酒の良否は大に料水の適否に起因するものなりとのことを案出し天保庚子十一年始めて西の宮町酒造場の料水に供する井水を魚崎村酒造場の料水に供用し以て試造せしめたるに果して品位同等の清酒を醸生することを得たり爾來年々西の宮町より多量の井水を海路魚崎村に運搬し以て釀造の料水に供用し猶ほ且つ釀法精練改良を爲すこと數次終に完全無虧の釀法を發明し現に今日の如く精其純粹なる清酒を醸生するとを得るに至りたり於茲乎正宗の銘酒は一層世上に發揚し東京其他各地方に於て銘酒と云へば先づ敝家の釀酒正宗に指を屈するに至れり是れ偏に家父が釀法改良に年來刻苦屢勉せし成績に因て發明せられたるものなれども今や之れを歐米各國の釀法及び化學的方法に對比するに敢て固然する所を視ず試に之が適例を舉れば則明治二十年第十月東京衛生試驗所に於て敝家釀造の銘酒正宗を分析せられたる說明に曰「第一有害のフェール油極めて僅少にして殆んど絶無なり第二防腐劑のサルチール酸を混合せず第三アルコール分の對稱も其宜きを

得各成分の量も能く相當の比例に適合せり第四味は醇美にして中に一種芳烈の氣を存せり」とあり由是觀之敝家の釀酒正宗は味は醇美にして中に一種の芳氣あり加るに滋養分を含有すること明晰なれば毫も歐米各國釀造の酒類に讓らざるなり現に我國新聞の巨擘即ち時事新報の如きは以上分析の成績に因て稀世の銘酒なることを認知し明治二十年十一月八日發行第一千七百三十六號の紙上に該分析の成績を詳記し以て世人に報道せり是れ實に敝家釀法の他に卓越進歩せし徵証なるべし去ればこそ明治十四年六月第二回内國勸業博覽會に於て一等有功賞牌を下賜せられたる所以なりとす然るに往々粗造の精酒に擬りて正宗の銘を附し荷作り其他小印迄を模擬し各地方に販賣し大に弊家固有の樽印即ち正宗の銘牌を毀傷する者ありれども如何せん當時之れを制止すべき法令なきを以て遺憾に歳月を経過し來りたる所幸に明治十七年六月商標條例を頒布せらるるに遭遇せり故に將來購買諸彦に於て正否を看別せらるるの便に供せんが爲め更に正宗の二字に紅色の櫻花一輪を附加し以て商標の要點と爲し且つ明治十四年六月第二回内國勸業博覽會に於て下賜せられたる一等有功賞牌其他小印を附記と爲し農商務省へ登録出願に及びたる處速かに許可せられ爰に始めて前記樽印は總て弊家専用商標たるの權利を享有せしに就き舊來の如く擬りに他家の得て以て使用すべからざるものなれば宜しく該商標を看認られ舊に倍し一層愛顧を給はらんことを冀望す頓首敬白

大日本兵庫縣攝津國魚崎

山邑太左衛門 鑑造

岡山市川崎町一番邸

關西一手賣捌所 入江商店

御菓子
せんべい 調進所
吉備だんご

岡山縣岡山市大雲寺町
西詰南側上島事

上 松 榮 堂

●新發明之名刺寫眞●

傳 此度當館ニ發明セル名刺寫眞ハ種々工風ヲ凝ラシ
テ發明セル者ニテ器械ヲ用テ高價ナル藥品ヲ用テ
名刺用紙ニ自分ノ肖像姓名ヲ速ニ寫シ得ル極簡易
ナル者ニテ雖レニテモ一時間ニ貳拾枚以上ヲ手易
ク寫シ得ルヲ以テ平素御持參ノ御方且ツ新年名刺
交換ナドニハ至極便利ナ者ナレハ貴顯紳士及學生
諸君ニハ是非必要ナリ至急申込アレ綿密詳細ナル
傳授説明書ヲ送ル●當館ニハ僅カ傳授料貳錢切手
六枚ニテ通信教授ヲ爲ス

備前國和氣郡 香登中町 明 精 館

●傳 授 廣 告●

金 物

荒 物 商

履 物

備前岡山市

上内田町

新田仙太郎

商店

特別大勉強

あらもの

卸商

履物

岡山縣岡山市

上内田町



近藤儀三郎商店

陶

器

商

岡山縣岡山市

片瀬町

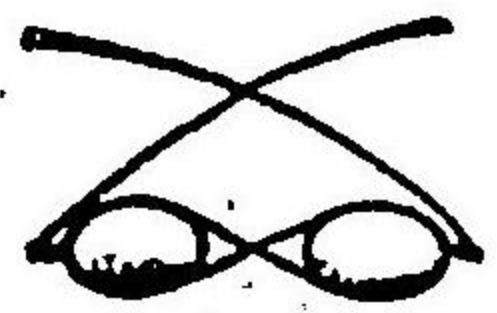
唐津屋



倉田万造

名備前燒

廉價大販賣



獨逸製凸老凹近眼養生眼鏡

萬國眼鏡

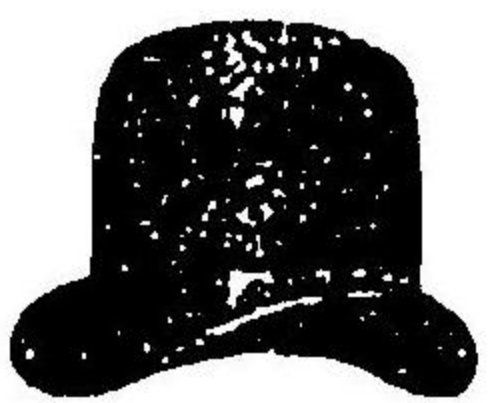
種々

金銀緣兩眼鏡寒暖計磁石類



蝙蝠傘

廉價大販賣



舶來洋小間物類

岡山市中之町西側

新田富三郎

三府小間物類

井二袋物類

卸專賣

岡山縣岡山市

東濱田町

三宅清二

廣告

弊店ハ中學師範學校各小學校其他同程
 度ノ教科用書各種學校教員生徒ノ參考
 書ヲ初メトシ實業ニ關スル教科書及參
 考書其他文房具理化學機械音樂器等ノ
 種類京坂地方新版書籍廣告揭示有之未
 ダ發送セサル書籍タリトモ前金御注文
 ノ諸彦ヘハ迅速取寄セ特別廉價販賣仕
 候敬白

岡山縣岡山市西大寺町三番邸

教育書房

武内彌三郎

疊表
 花筵問屋

并ニ縁類、編笠、荒

苧ヲ販賣ス

岡山縣岡山市大字瓦町

中通リ北側

瀬尾屋事

今谷直平

履

物

商

平

三十四

備前國岡山市大字下之町

梅本常次郎

筆 墨 商 茶

井 二 文 房 具

備前國岡山市大字下之町

正雲堂 藤原九兵衛

金物大工道具商

岡山縣岡山市五町東詰南側

兒島源七郎

三十三

和大
後樂園真景及詳誌
附後樂園并岡山市平面圖

繪入
後樂園案内
附後樂園平面圖

日本三
名園之一
岡後樂園真景

岡山名所圖會

山陽錢道旅行手引

新
岡山市街之圖

複製版并ニ彩色ニ共三種 全三折

折一全 錢三價正 本美裝洋 錢八價正 本美裝洋 錢六價正 錢各正 四價 冊一全本美裝洋 錢六價正 冊一全本美裝和 錢三拾價正
はろい 捌賣 可上市山岡 舍謹細 捌賣兌發

和洋

さ せ う

小卸 賣シ 商

弊店ハ品質ヲ撰ミ代價ヲ

低廉ニ精々勉強仕候間其

實否御試ノ上舊ニ倍シ御

引立ヲ乞フ

岡山市橋本町川岸
鹽尻澤次

御手輕料理廣告

一海魚すき焼	一人前	五錢	一かしわん	全	三錢
一かし〇	全	六錢	一吸物	全	三錢
一牛肉	全	五錢	一小田巻	全	三錢
一茶わんむし	全	五錢	一さけ	全	三錢
一さしみ	全	五錢	一うなぎ	一人前	三錢五厘
一あなごまむし	全	五錢	一うなぎ	一人前	三錢五厘
一大平	全	五錢	一會席	十錢	八錢
一三ッ井	全	十五錢	一伊丹上酒	壹本ニ付	十五錢
一梅わん	全	四錢	一したく	一人前	五錢

岡山京橋西詰
四海樓

松竹梅

宿泊料表	四	三	二	一	四	三	二	一	四	三	二	一
金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金
拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓

京都旅宿所
むさし野

旅宿ノ中飯ハ各等宿泊料ノ半額トス
從來各地諸君の御愛顧を蒙り難有奉謝候猶不相變御來車之程御投宿あらんことを伏て奉希上候也
京都市下京區川端四條下ル

平安遷都紀念祭

參拜章取扱所

岡山市船着町

西村孫六郎

海陸貨物運漕問屋

帝國海上保險會社代理店

岡山市船着町川岸

西村回漕店

岡山驛停車場前

西村支店

岡山川口三幡港

西村支店



正 札
 入 賣
 大 安

岡山中之町
 丸源商店



明治二十八年五月一日印刷
 明治二十八年五月七日發行

編纂者
 發行者

實業談話會編纂委員

山根林太郎
 岡山縣岡山市大字
 小野田町六十八番邸

印刷者

岡山縣御野郡鹿田村大字
 大供六十九番邸
 松井壽士郎

發行所

岡山縣岡山市大字内山下
 十二番次二号邸
 第四回内國
 勸業博覽會
 岡山共贊會

印刷所

岡山縣岡山市大字東中山下
 十四番邸
 文友館

21-66

日本一吉備團子の本来元祖は岡山市小橋
町百廿四番邸武田廣榮堂にして支店は岡山市西中島町京
橋通に在り

日本一吉備團子は京都大坂東京の三府を
始め神戸其他諸國有名の都市に輸出販賣す

日本一吉備團子は必ず釘貫形◇の商標を
記載するを以て本来元祖の正品とす

日本一吉備團子は常に岡山縣廳の御用を
奉じ前には 皇后陛下へ進獻せられ又 皇太子殿下の御
用を仰付けられ且つ大婚廿五年御祝典の餽納し御満足
に被思召旨の御書を賜はりたり是れ元祖日本一吉備團子
の最も榮譽とする所なり

日本一吉備團子は明治廿六年五月岡山縣
展覽會に於て最優等の褒狀を受けたり

日本一吉備團子は明治廿六年七月香川縣
内國々益品雜覽會に於て品位高尚風味頗る佳良永貯不變
價格又廉其有功大に嘉すべしとの褒狀を受けたり

日本一吉備團子は明治廿七年十月大坂府
衛生試驗所に於て有功の証明を得たり

3

岡山案内記

実業談話会

国立国会図書館

025783-000-0

特23-111

岡山案内記

実業談話会/編

M28

ADC-3320

